# 備前焼茶道具の記録
## ――一七世紀代の茶会記を中心に――

重根弘和

### はじめに

令和二年二月一四日から三月三一日まで、特別展「備前のある場所―取り合わせの魅力―」を岡山県立博物館において開催した。この展覧会では、千利休（一五二二～一五九一）、古田織部（一五四四～一六一五）、小堀遠州（一五七九～一六四七）らが活躍した時代の備前焼を、茶道具の優品と取り合わせて展示を行い、茶席における備前焼の役割を紹介した。

取り合わせについては、作品の所蔵者をはじめとする現代の茶人から指導を受けた。茶人は茶席を設けるとき、なるべく異なる素材、産地のものを取り合わせながらも、調和や意味が生まれるように熟慮を重ねる。その際、必ずしも同時代のものに限定して取り合わせを行う訳ではないが、制作された時期が近いもののほうが相性も良いことが多い。現代の茶人のそうした見解を踏まえた上で、そこに含まれる備前焼の新旧順に取り合わせた茶道具を並べると、使う道具の移り変わりや様式の変化とも言えるものが見えてくるのではないかと想定し、展覧会の企画を進めた。

企画を進める際には、一六世紀中頃から一七世紀前半の茶会記を参考にした。茶会記とは、茶席で使用した茶道具などを、日時や参加者などと共に記した文献である。『松屋会記』『天王寺屋会記』『今井宗久茶湯日記抜書』『宗湛日記』が代表的なものとして知られ、この四会記はまとめて、四大茶会記とも呼ばれてきた（筒井二〇二〇）。

こうした現代に伝わる茶会記に、当時行われていた茶会がすべて網羅されている訳ではないだろうが、記録された回数はかなりの数に及ぶ。そこから読み取ることができる傾向は、当時の様子をある程度反映している可能性が高い。しかも有名な茶会記については、翻刻された上で『茶道古典全集』（淡交社）などに収録されており、誰もがその内容を知ることができる。情報の共有化を進めた上で、研究が積み重ねられてきた。

展覧会においても、先学の研究に基づきながら備前焼の使用記録を茶会記から抽出し、一覧表にして掲示した。表については、展覧会図録（以下、図録）の巻末にも掲載されている（岡山県立博物館二〇二〇）。本稿はそれに続く記録を集成し、紹介するものである。

### 一　一六世紀中頃から一七世紀前半の傾向

本稿で対象とする時期について傾向を述べる前に、まず、図録に掲載された表に基づき、一六世紀中頃から一七世紀前半の概略を紹介する。

茶会記における最も古い備前焼の記録は、天文一八年（一五四九）一二月一二日である。「宗理」の茶会で、水指と建水に用いられた。その後、花入、茶入、水指、茶碗、蓋置で使用した記録も確認できるが、圧倒的に使用頻度が高いのは建水である。

転機は、天正一二年（一五八四）である。天王寺屋宗及（～一五九一）が水指に備前焼を用いることが増える。その後、天正一五年（一五八七）からは花入に使用されることも増える。同年六月一四日、千利休が博多の茶席で、備前肩衝茶入を高級な白地金襴の仕覆に入れて披露する。そして、袋ばかりが立派ということで、その茶入に「ホテイ」という銘を付けたと伝わる。銘の由来を見てもわかるように、この頃はまだ、備前焼は茶道具としてそれほど高く評価されていなかった。しかし、先にも触れたが、この茶会と前後して、備前焼は花入にも積極的に使用される。茶道具の中での備前焼の位置付けは、天正一二年に変化の兆しを見せ、天正一五年からその変化が明確になると言える。天正一三年（一五八五）には羽柴秀吉（一五三七～一五九八）が関白となり、千宗易が利休居士号をたまわる。秀吉による天下統一が進み、利休の影響力が高まる頃、茶の湯における備前焼の評価にも大きな変化が見られる。

ただし、この頃、評価に変化が見られるのは備前焼だけではない。谷晃は茶会記の分析を通じて、次のように指摘している。天正一三～一四年頃、茶席において使用する陶磁器は中国産が減少し、朝鮮産と日本産が増える。また、掛物については中国絵画が減少し、日本人禅僧の墨跡や公家の書跡が増える。茶室が狭くなるのも、この頃である（谷二〇〇一）。他に及ぼす影響が最も強い建築をはじめ、様々な分野において人々が好むものに変化が生じている。備前焼からもそうした変化の一端が読み取れるということだろう。

その後、慶長期（一五九六～一六一五）になると、古田織部らが備前花入を積極的に使用する。それまでの記録を見る限り、備前花入は床に置いて使うことが多かったが、この頃から床の中釘のほか、柱や下地窓に掛けて使用することが増える。慶長期において備前焼は、建水だけではなく、水指、茶入、花入、香合と多様な用途で用いられると同時に、使い方も工夫される。しかも、花入と水指、茶入と水指、水指と建水、さらには花入と水指に加えて建水など、備前焼を二つ以上取り合わせて使用することもあった。その傾向は寛永一五年（一六三八）まで続くが、それ以降、小堀遠州は水指以外に備前焼を用いることはなく、寛永二〇年（一六四三）からは建水にのみ使用する。その流れは、天正一五年より前に遡るかのようである。

## 二　本稿の位置づけ

前回の集成では、寛永一五年以降の記録は小堀遠州の茶会記に限られていた。そのため、寛永期以降について述べた傾向は、あくまでも遠州の取り合わせに基づくものと言える。その後、遠州よりやや遅れて活躍する金森宗和（一五八四～一六五七）、

江岑宗左（表千家四代、一六一三～一六七二）、伊達綱村（仙台藩主四代、一六五九～一七一九）らの茶会記の調査も行い、集成に加えた（21～44頁）。なお、近年、四大茶会記を含めて、茶の湯に関する文献について再検証が進んでいる。表には信憑性が疑問視されている記事も含むため、必要に応じて区分できるように、引用した文献と記事の掲載頁を、表の最下段に示した。

本稿は、新たに追加した寛永期以降の傾向を読み取ることを目的とする。傾向を読み取るにあたり、それ以前の流れも含めて見たほうが理解しやすいと考え、表については元和元年（一六一五）から掲載することにした。表の最上段に付けた番号は、図録に掲載されたものとの連続性がわかるように続き番号にしている。すなわち、本稿に掲載した表は、図録に掲載された表から元和元年以降を切り取り、そこに新しいデータを追加して、再編集を行ったものである。

## 三　一七世紀前半から一八世紀初頭の茶会記から読み取れること

### （一）変遷

元和元年以降、備前焼は花入、茶入、建水、鉢などにも使用されているが、最も多く用いられるのは水指である。寛永七年（一六三〇）には、備前の「りうご」花入と「鞠成・まりなり」水指を合わせて遠州が使用している（655・656）。しかし、これは珍しい事例で、同じ茶席に二つ以上の備前を使うことはほとんど無くなる。さらに、寛永八年からは、水指にのみ備前を使用する。そこには朝鮮産の茶碗と瀬戸の茶入、花入に金属器か青磁を合わせることが多い（657～722）。寛永二〇年からは、備前の使用は建水に限られる（724～739）。「一」でも述べたとおり、寛永期（一六二四～一六四四）後半における遠州による備前の利用傾向は、天正期（一五七三～一五九二）を遡るかのようである。ただし、遠州以外の茶席を見ると、花入に用いた記録が確認できる。金森宗和が寛永一五年一月二八日に、備前と思われる「ツノカタノ花入」を床の窓に掛けて使用している（673）。

正保元年（一六四四）からは、再び水指が中心となる。それに加えて、茶入と花入に用いられることも増える。しかし、建水としての使用は少なくなる。それから五〇年以上同じような状況にあるが、元禄一四年（一七〇一）からは水指の使用が減少し、花入の使用が増加する。これは、伊達綱村が短期間に連続して同じ花入を使用したことが影響している。

元和元年から宝永二年（一七〇五）の茶会記を見ると、備前焼は水指か花入に用いることが多い。これは天正期の後半から続く傾向である。一七世紀中頃からは、茶入が比較的よく使われている。やや時代が下り、一八世紀以降になると、名物記に備前茶入が掲載されることが増える（下村二〇一六）。茶入に特化した名物記が増えることが大きな要因となっていることは確かだが、評価に値するものが無ければ取り上げられることはない。一七世紀中頃から使用機会が増え、備前茶入の中にも評価すべきものがあるということが徐々に認められたのだろう。

（二）茶会記に登場する伝世品

寛永一三年（一六三六）、古田織部より伝わる備前肩衝茶入「サヒスケ」が登場する（666）。「サヒスケ」は『大正名器鑑』にも掲載され（高橋一九三七）、備前茶入の代表作として現代に伝わる。ロクロ成形後に胴部を押さえて変形し、口縁や肩に傾きを加えた形状、縦方向のヘラ目、底面に刻んだ「六」と「C」の記号、表面の質感、いずれを見ても慶長期以前の特徴を備えており、織部が所持したと語り継がれてきた。織部の没年は元和元年（一六一五）であるから、それよりも前に制作され、使用されていたものと考えて問題ないだろう。そうなると、制作されてから二〇年以上過ぎた後に、初めて文献に登場したことになる。しかも、現代にまでわたり大切に伝えられている。

茶道具は制作されてから文献に登場するまで、さらには廃棄されるまでに時間が経過していることがある。そのことを考慮に入れると、文献記録や消費地遺跡での出土例は、確認できた時期よりも前に存在していたという裏付けにしかならず、出現時期を特定する根拠にはなり得ない。文献や出土品から伝世品の制作年代を特定することは難しい。そうしたことを考える上でも、この「サヒスケ」の記録は重要である。

ところで、慶長期に制作されたと言われる備前の茶入は、胴部に変形を加えた筒形のものが多い。その変形が少ないものもあれば、強調されているものもある。口縁部や底部にまで大きな変形が及ぶものもある。すべて同時期に制作されたとは考えがたい。これは、備前の茶入に限らず、他の器種、さらには他の産地の茶道具についても同じことが言える。出土品から得た年代観を伝世品にあてはめるときには、まず伝世品に見られる形態の変遷を把握した上で類型化を行い、出土品がその類型化のどの範囲に収まるのかを明示する必要がある。それが不明確であると、年代が特定できる範囲を実際より広くとらえてしまうなどの誤解が生じる可能性がある。

伊達綱村の茶席において、「鏡山」という銘の茶入が使用されている（903・915・956）。酒井巖は、この茶入は『大正名器鑑』に掲載された備前茶入「鏡山」ではないかとする（酒井一九六八）。備前茶入「鏡山」は仙台藩茶頭である清水道閑（一六一四～一六四八）の手造りと伝わることに基づき、そのように推測した。ただし、元禄一五年（一七〇二）六月一一日の茶会記には、「鏡山丸壺」と書かれている（915）。備前茶入「鏡山」は筒形であり、丸壺形ではない。そのため、綱村の使用した「鏡山」は備前ではない可能性もある。

（三）備前焼についての表記

「花入古備前之焼物也。四方成、別而奇也」という記述が寛永一四年（一六三七）に確認できる（668）。この記録は、『隔蓂記』という鳳林承章（鹿苑寺住持、一五九三～一六六八）の日記の記載による（赤松一九九七）。『隔蓂記』は厳密に言うと茶会記ではないが、使用した茶道具について記した部分がある。

茶会記と同じ意味合いで使用できると判断した部分については、表にも掲載することにした。同年、遠州が「古備前やき」の水指を使用している（669・670）。その後、寛永一九年（一六四二）から、「古備前」という表記が頻出する（720・721ほか）。この頃、備前の茶道具の中に、「古」を付けて区別する必要があるものが存在すると認識され始めた。

茶会の記録ではないが、「池坊専好立花図」にある寛永六年（一六二九）閏二月六日の挿図には、「古備前焼也」という記載がある。この図が作成された年代については検証が必要だが、立花制作当時に描いたものを忠実に写したということであれば、「古備前」と記した最も古い記録となる。

また、『隔蓂記』の寛永一五年二月二九日の項には、「伊部焼之獅子香爐」という記述がある。これは、現状で確認できる「伊部焼」と記した最も古い記録である。江戸時代に入ると、各地で窯が築かれ、中世のように国名ではなく、より狭い地域名でやきものを呼ぶことが増える。そうした変化を受け、備前焼も「伊部焼」と呼ばれることになる。このほか、「而伊部焼之花入壹ヶ被恵之。耳付古銅之體似焼也」（寛永一九年一〇月一九日）、「伊部焼之矢筒之様之掛花入」（寛永二〇年五月二三日・723）、「伊部焼之布袋之香炉」（正保三年七月一八日）、「備前伊部之香爐」（萬治二年正月二一日）、「備陽伊部焼之掛花入」（萬治四年正月二六日）といった記載もある。

なお、現在「伊部手」と言うと、黒っぽく発色する土を塗った作品のことを指す。こうした塗土を施す茶道具や細工物と呼ばれる香炉を盛んに作るのは、寛永期以降である。ちょうど、「伊部」と記すことが増える時期と重なる。その頃に制作された作品の箱には「備前」ではなく、「伊部」と書かれていたと想像できる。後世の人がそれを見て、塗土が施されたものは「伊部」の手であると区別するようになったのではないか。「伊部」と呼ばれている時期に多く作られていたという意味であったとも言える。地元では昭和時代初期まで、「伊部焼」という呼び方のほうが一般的であった。改めて「備前焼」の呼称が定着するのは、備前町が発足する昭和二六年（一九五一）頃からである。

元禄一二年（一六九九）、伊達綱村が建水に「新備前四角」を使用する（886）。この年以降、水指や花入に「新備前」という表記が見られる。やや時代が下り、元禄一五年（一七〇二）には、花入に「新備前異風　松平新太郎より」という記述がある（934）。松平新太郎とは、池田光政（岡山藩主初代、一六〇九～一六八二）のことである。綱村の茶会記では、利休、織部、遠州が所持していたものは「古備前」（884・885ほか）、光政から届いたものには「新備前」と表記し、備前焼について「古」「新」の区別をしている。光政が岡山藩主となるのは寛永九年（一六三二）であることから、「新備前」と表記されたのは、その時期以降に制作されたものだろう。

以上のように、寛永期を通じて、「古備前」「伊部」「新備前」といった記述が登場し、備前焼についての表記は多様化する。

## おわりに

元和元年から宝永二年まで、約九〇年間にわたる茶会記を見てきた。豊臣家が滅亡してから、五代将軍徳川綱吉の治世下までを対象としてきたことになる。この期間を通じて最も多く使われた備前焼茶道具は水指であり、それに次いで多いのは花入である。この傾向は天正一二年から続く。茶席における備前焼の役割は、天正一二年以降、大きく変わることはない。茶碗については、一例も確認できなかった。ただし、一七世紀中頃からは茶入に用いられることが増える。この時期の大きな特徴と言える。

茶会記において備前焼を記録するとき、基本的には「備前」と記すことが多い。それは元和期より前の時代と変わらない。しかし、寛永期の後半から「古備前」や「伊部」と記すことも増える。そして、元禄一二年からは「新備前」といった表記も見られる。

江戸時代に入ると各地で新しく窯を築く。その窯で焼かれたやきものは、国名ではなく、より狭い地域名で呼ばれる。それにともない備前焼も、国名である「備前」ではなく、「伊部」という窯がある地域名で呼ばれた。また、新たな窯で焼成された茶道具が普及すると、伊部でもその影響を受けた「古備前」とは異なる作風の備前焼茶道具が作られ、その箱には「伊部」と書かれた。呼称の多様化から、その背景にあるやきものをめぐる環境や作風の変化を読み取ることができる。

茶会記は文字情報ではあるが、その変遷を追うことで茶道具の形や使い方の変化を知ることができ、当時の茶会を偲ぶための情報が得られる。ただし、その情報量が膨大であると同時に、記録方法も茶会記によって異なる。研究成果の共有を進めるためには、収集と整理の方法も検討していく必要がある。


## 謝辞

本稿作成のため、資料収集を行う際には、梶山博史氏（中之島香雪美術館）と下村奈穂子氏（根津美術館）から助言と協力を得ました。

「池坊専好立花図〈九十三図（著色）／自寛永五年至同十二年〉」（頂法寺蔵、重要文化財）及び、『専好立花の観賞』については、江木淳人氏（備前市立備前焼ミュージアム）から教示を得ました。

末筆ではありますが、ここに記して感謝の意を表します。


《参考文献》


赤松俊秀編纂　『隔蓂記』思文閣出版　一九九七年

池坊専永編　『専好立花の観賞』日本華道社　二〇二〇年

岡山県立博物館　『備前のある場所―取り合わせの魅力―』　二〇二〇年

酒井巖　『伊達綱村茶会記』　酒井ゑい　一九六八年

下村奈穂子　『備前焼茶道具の研究』法藏館　二〇一六年

高橋義雄　『大正名器鑑普及版』六　寶雲舎　一九三七年

谷晃　『茶会記の研究』淡交社　二〇〇一年

筒井紘一編　「神谷宗湛日記」『茶書古典集成』五　淡交社　二〇二〇年

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 638 | 一六一五 | 元和元年 | 一〇月二〇日 | | 有楽 | 虚堂墨跡　重宗<br>甫ニアリタノ也 | 白梅ト寒菊 | 青地龍耳アリ、紫筋アリ、口ノ開ニ少キ花瓶、此花瓶八前ニ春屋所ニアリテ、水野監物取候花瓶ナリ | 京極茄子、段子ノ袋、内赤盆 | 宗及ク、リ袴ノ水指 | 文ノアル銅水こぼし、三足アリ、耳アリ、元来ハ香炉ト見ヘタルハ下水ナリ | 古瀬戸ノ天目<br>天目ハ不干取出被申候天目ト也、薬ノ色替タル所アリ、ヒズミタル見事ノ天目也、大キニモアリ<br>(薄茶)利休時ノ赤キ京焼 | 曲輪々々香台ニ、上ニ銅香炉、伴蓋蓋ニ釣ノ高キ三ツアリ、身ニ足三ツアリ、文アリ<br>芋モナキ象牙ノ茶杓<br>竹ヒツキリ<br>杉ノ片口 | 1 | 420 |
| 639 | 一六一七 | 元和三年 | 六月四日 | 四時 | 藤重藤元 | | | カネノ花入(絵あり)　サウ耳アリ、文カスカニミユル | | | 古キ段タノ水下 | 高ライ茶碗(絵あり) | | 引切<br>舟越殿ヘロテイミル | 4 | 243 |
| 640 | 一六一八 | 元和四年 | 四月一三日 | 晩 | 中左近 | 定家朗詠ノ切 | | | 四方盆ニ称名寺 | 備前ノトヒロナリ、ロノ方ヲ前ヘ置、ツルハヲトシタルモノナリ | 青地水下　薄茶ノトキ、カメノフタ | 高ライ茶ワン | 高ライ皿ニナマスニ | | 4 | 221 |
| 641 | 一六一二 | 元和八年 | 一〇月二九日 | | 久好 | 絵 | | | 肩衝　盆ナシ　袋木綿カントウ、有楽(公)ヨリノ | 備前水差　イビツナリ | メンツウ | 黒茶碗 | 吉(志)野鉢ニサヾイ　水グリ | 引切 | 8 | 257 |
| 642 | 一六一六 | 寛永三年 | 一二月六日 | 晩 | 中坊左近 | 西行哥書 | 白玉・水仙<br>カンキク | | 肩丸キ嶋茶入 | 備前水指 | | 福庵高ライ茶ワン | | | 4 | 254 |
| 643 | 一六一六 | 寛永三年 | 一二月一五日 | 朝 | 大蔵源右衛門 | 古渓文字、蒲庵印 | 梅・カンキク | ホソロ | 文林か | 備前水指<br>ルアルノ　ツ | メンツ | 白高ライ茶ワン | 菓子、食籠ニ | 引切 | 4 | 255 |
| 644 | 一六一七 | 寛永四年 | 一二月一八日 | 晩 | 中左近 | 佛紅賛ノ絵 | ツハキ　キイセン花 | 二重筒 | 耳茶入 | | 備前ノメンツ | 今カウライ茶ワン | | | 4 | 258 |
| 645 | 一六一八 | 寛永五年 | 五月一日 | 不時 | 小堀遠州 | | 川骨 | 備前花入 | 小棗 | 筑前やき | | 茶碗　右同(高麗) | | 染付香炉　盆ニ乗て | 7 | 41 |
| 646 | 一六一八 | 寛永五年 | 五月九日 | 朝 | 小堀遠州 | 国師　道号 | | 備前花入　卓ニ乗ル | 古瀬戸肩衝 | 膳所焼水指 | | 岡山茶碗(高麗か) | | 棚ニさいろう　脇ニ青地　菊ノ染付香合<br>中ノ重ニ瀬戸しゝノ香炉<br>引切 | 7 | 41 |
| 647 | 一六一八 | 寛永五年 | 六月一四日 | 朝 | 小堀遠州 | | くわん草　赤むくげ | かね掛花入 | 春慶ひやうたんなり茶入 | 水さし　備前焼 | | 三島茶碗 | | 引切 | 7 | 42 |
| 648 | 一六一八 | 寛永五年 | 六月一四日 | 晩 | 小堀遠州 | 驢馬 | くわん草　かんひ | ぞう耳　中かふら | 文琳 | 右同(備前焼) | | 右同(三島茶碗) | | 引切 | 7 | 42 |
| 649 | 一六一九 | 寛永六年 | 閏二月二一日 | 朝 | 中坊左近 | 柳立観音ニ南堂賛 | 椿・桜 | コトウ | セト茄子、光明朱八葉盆ニ | 信楽水指 | 備前水下 | 三好丹後殿高ライ | | | 4 | 263 |
| 650 | 一六一九 | 寛永六年 | 六月五日 | 日中 | 誓願寺隠居<br>安楽庵 | 定家懐帋 | コクチナシ　キ<br>ンホウケ色タノ<br>花五色入 | 胡銅<br>薄板ニ | 文林、青貝八角盆<br>袋青段子、鳥タスキ<br>ツホニ黒薬一色ニ、嶋<br>モノカ | 古セト水指 | 備前水下 | 高ライ也、筆スヽキノ<br>ワリカウタイ也 | 備前鉢ニ、タウフアフリ・ニシ<br>メホシタルノ、青ワラヒ・ヒシ<br>キ三色、皿ソヘテ、高ライ鉢ニ<br>唐ノスイキ　ミヤウカノコ<br>ケシアヘ<br>鉢ニフアヲクシ　マシリテ引<br>菓子ミノ柿・カヽセンヘ・キク<br>ラケ、チヤツホニ面々 | 釣棚ニ香入一色 | 4 | 264 |
| 651 | 一六二〇 | 寛永七年 | 一月七日 | 朝 | 石井宗有 | 定家コセン | | コトウ四方花入 | 茶入セタヤキ | 備前水指 | | 高ライ茶ワン | | | 4 | 273 |
| 652 | 一六二〇 | 寛永七年 | 一〇月二日 | 朝 | 小堀遠州 | 無準 | | | 生野 | 水指　姥口　備前焼 | | 高麗 | | 引切 | 7 | 48 |
| 653 | 一六二〇 | 寛永七年 | 一〇月二七日 | 朝 | 小堀遠州 | 仏光 | | 丸ひやう | 高畠ノ茶入 | 水指　ウハ口　備前焼 | 丹波焼 | 大坂高麗 | | 染付香合<br>引切 | 7 | 49 |
| 654 | 一六二〇 | 寛永七年 | 一一月三日 | 朝 | 小堀遠州 | 墨跡　師賛　驢馬　国 | | 大丸龍耳 | 在中庵 | 水さし　備前焼 | 丹波焼 | 大坂高麗 | | | 7 | 49 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 655 | 一六三〇 | 寛永七年 | 一一月二六日 | 晩 | 小堀遠州 | 仏光　前二花入 | | 備前ヤキ　りうご | 相坂ノ茶入 | 水指　備前　鞠成 | | トヤ | 貝ノ短檠　引切 | | 7 | 49 |
| 656 | 一六三〇 | 寛永七年 | 一一月二八日 | 朝 | 小堀遠州 | 月石渓 | | 花入　備前焼　りうこ | 相坂ノ茶入 | 水指　備前　まりなり | しからき | トヤ茶わん | 染付菱ノ香合 | | 7 | 49 |
| 657 | 一六三一 | 寛永八年 | 一月八日 | | 松平下総守 | レウランケイ文字 | 胡銅花入　薄板 | 古キ瀬戸、尻フクラ、袋兎ノキレ、色クロクモヨキノヤウ也、緒モヨキ色、ウラハヘニ色也、ツホハ石地蔵ノ筒ハリタル様也、ケイ見事也、一方火口ノヤウ也、此比小遠州ヘ御開候由也 | 神式部殿ヨリノ　尻フクラ | 水指　備前ノマリ | 信楽水下 | 高ライ茶ワン　茶碗、小遠州指図ニテ御取候由ナリ（絵あり）古キ高ライ茶ワンナリ | ワリ香台茶ワン | 大イトメ　イリコ　玉子フハ〈〈　染付長キサラ　コフワタ　錦手鉢カウノモノ色々　染付皿ニナマス　イトメニ、白魚　子コモリシヨ引 | 染付四方香入　引切 | | 4 | 275 |
| 658 | 一六三一 | 寛永八年 | 二月一〇日 | 晩 | 中左近 | 西行哥書奥書 | 梅・椿 | 角コトウ花入 | 神式部殿ヨリノ　尻フクラ | 備前水指 | | ワリ香台茶ワン | 鉢肴キンカン | | 4 | 278 |
| 659 | 一六三一 | 寛永八年 | 二月二五日 | 朝 | 小堀遠州 | 隆欄渓 | | 金ノツヽカケテ | 瀬戸肩衝 | 水指　備前焼 | 膳所焼 | 高麗 | | | 7 | 50 |
| 660 | 一六三一 | 寛永八年 | 四月二七日 | 朝 | 小堀遠州 | 驢馬　国師賛 | | 金ノ筒カケテ | 相坂茶入ノ盆ニアル　堆朱五葉 | 水指　備前焼 | シカラキ | 島高麗 | | | 7 | 50 |
| 661 | 一六三一 | 寛永八年 | 一〇月三〇日 | 朝 | 大文字屋宗味 | 虚堂墨跡 | 梅・水仙花 | 胡銅花入　薄板ニ | 日野肩衝、袋ニ入、盆ナン　上薬クロシ、モヨキノヤウナル所モアリ、下薬カキ、口高キ也、土アツク、アカ白キ也、ヘキ土也 | 水指備前荒焼　ウハロ | 水下信楽 | | 染付小皿ニユヤキ　鉢カウノ物　大イトメニ鯛大ヤキ | カタミカワリ引切　香入ハ、染付ノ長キノ身ハ八角、フタハ丸シ | 4 | 279 |
| 662 | 一六三三 | 寛永一〇年 | 六月一日 | 朝 | 小堀遠州 | 養叟 | | 仏具屋　六角 | 小瀬戸 | 水指　備前焼 | シカラキ | 染付 | | 金獅子香炉　布袋香合 | 7 | 52 |
| 663 | 一六三三 | 寛永一〇年 | 六月一七日 | | 小堀遠州 | 養叟 | | シカラキ　リウコ | 小瀬戸 | 水指　備前 | シカラキ | 染付 | | 貝布袋ノ香合 | 7 | 53 |
| 664 | 一六三四 | 寛永一一年 | 一月一七日 | 朝 | 西川八右衛門 | 天祐横字 | 柳・ツハキ | 大平ニ(絵あり)ムモンカネ花入カケテ | ヤキ茶入 | 備前◇水指 | | 高ライ茶ワン | | | 4 | 291 |
| 665 | 一六三四 | 寛永一一年 | 三月二五日 | 朝 | 藤シケ藤厳 | 正印墨跡　古織部殿表具也 | 椿ニ色トケマント入　薄板 | コトウ | 四方盆ニ作物茄子、袋ニ入テ | トヒロノツル　ノナキ、ロノ方ヲ前ヘヲク、ヒセンモノカ、藤元ノ数寄ニテ見申候ノ | メンツ | 高ライ茶ワン、少黒　アヲメ也 | 高ライ鉢ニカウノモノ　ツケ　サンセウ　大白菊皿ニ鮒ニヒタシ | 引切 | 4 | 294 |
| 666 | 一六三六 | 寛永一三年 | 一〇月二六日 | 晩 | 中沼左京 | 沢庵横字、詩哥ノ、ロ一クタリ半ノ内ニ、瀧本坊ト有候 | 水仙　カキツハタ | カ、ネノツヽ | 備前肩衝古織部殿ヨリ、ヲカワ左馬亮ヘ参候由、サヒスケト云也、巣蓋、袋コン地小文 | | | | | | 4 | 308 |
| 667 | 一六三七 | 寛永一四年 | 閏三月二八日 | 朝 | 別所内膳 | 琦楚石文字 | ウツキ花 | 大平ニ、備前筒 | 芋ノ子、肩ノアルノ、袋紫キンラン、小文 | 信楽水指 | | アカシコ楽茶ワン | | イリサケ　キンカンニ　大皿ニイカ　アカヽイ | 4 | 311 |
| 668 | 一六三七 | 寛永一四年 | 一〇月晦日 | 午時 | 寶厳院之詮主座 | 夢窓國師大文字　二字物墨跡 | | 花入古備前之焼物也。四方成、別而奇也 | | | | | | | 14 | 1-82 |
| 669 | 一六三七 | 寛永一四年 | 一二月二日 | 夜 | 小堀遠州 | 定家　初雪ノ歌 | | | イよスタレ（瀬戸中興名物） | 水指　古備前　やき | | 後藤高麗茶碗 | | 彫物燭台　蝶ノ置合（香合） | 7 | 57 |
| 670 | 一六三七 | 寛永一四年 | 一二月一三日 | 朝 | 小堀遠州 | 拝領之清拙　平心 | | 金クモノ耳 | 尻フクラ | 水指　古備前　焼き | 官庸 | 後藤高麗 | | 香合　引切 | 7 | 58 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 671 | 一六三八 | 寛永一五年 | 一月八日 | 不時 | 小堀遠州 | 春屋一行物 | | 蝶ノ耳付 | 尻フクラ 朱盆ニ乗ル（薄茶）キンマ | 水指 備前焼 | くわんにう | 瀬戸黄ナタレ 菊台申盆ニノル（薄茶）長崎高麗 紅 | | | 7 | 58 |
| 672 | 一六三八 | 寛永一五年 | 一月一四日 | 朝 不時 | 小堀遠州 | 国師 一行物 | | 青地筍 | メンツキ茶入（正意作 面壁 中興名物） | 水指 備前焼 | 後藤茶碗 | | | | 7 | 59 |
| 673 | 一六三八 | 寛永一五年 | 一月二八日 | 朝 | 金森宗和 | チクセンボンセン ノ文字 | セウトヨクワ、クワントウ入、ミツマタ共云ト也 | 床ノ窓ニ、備前物入カケテ | 瀬度肩衝、アカキ折トメノ袋ニ入テ（薄茶）ヌリ棗 | （絵ありノナンハン物ト也、フタハシヤレ板也、サンヲ打テ、サンヲ立ニヲカレ候 | メンツ メンツヨリ茶ワンヲ取出シテ | 茶ワンハ、エカキノ高ライ也 | 鉢ニ鮒鱠染付茶ワン重テ出テ、カウノ物ホシ大コンキサミ色々置合テ、ノキク染付鉢ニ水クリムキタルト、四方ト | 香入此ナリ、二重也、（絵あり）上キャラ、下タキ物引切 | 7 | 59 |
| 674 | 一六三八 | 寛永一五年 | 二月四日 | 朝 | 江戸屋与左衛門 | リウランケイ文字 | 梅・椿 | コトウ、菱ナリ、サウミ、花入薄板ニ | アカヌリ六葉盆ニ丸ツホ、袋鳥タスキノ段子、緒ムラサキ、フタノツク | 備前水指 | メンツ | 白高ライ茶ワン | | 引切 | 4 | 342 |
| 675 | 一六三八 | 寛永一五年 | 三月二九日 | 朝 | 小堀遠州 | 国師 横物 | | 金ノ蛛耳付 | 尻フクラ 盆ニノル 堆朱五葉 | 水指 備前焼 | るいさ | 高麗 | | 獅子香合引切 | 7 | 59 |
| 676 | 一六三八 | 寛永一五年 | 二月二九日 | 朝 | 小堀遠州 | 清拙 | 水仙 | あまつら | 在中庵 | 水指 備前 | 膳所やき | とゝや | | 青貝 引切 布袋 香合 | 7 | 59 |
| 677 | 一六三八 | 寛永一五年 | 一二月三〇日 | 朝 | 小堀遠州 | 清拙 | 水仙 | あまつら | 在中庵 | 水指 備前 | 右同（膳所やき） | とゝや | | 青貝布袋香合 | 7 | 59 |
| 678 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月一日 | 晩 | 小堀遠州 | 清拙 | 水仙 | あまつら 耳 | 遠中庵 | 水指 備前 | せゝやき | とゝや | | 青貝 引切 布袋 香合 | 7 | 60 |
| 679 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月三日 | 晩 | 小堀遠州 | 国師 横物 | 水仙 | 金筒花入 | 大瀬戸 | 備前水さし置合テ | 膳所やき | 瀬戸 | | 布袋香合引切 | 7 | 60 |
| 680 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月四日 | 晩 | 小堀遠州 | 清拙かけ物 | | | 在中庵 | 水さし 備前 | せゝやき | 瀬戸 | | 布袋香合彫物ノ灯台 | 7 | 60 |
| 681 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月五日 | 朝 | 小堀遠州 | 清拙 | | | 在中庵 | 水さし 備前 | せゝやき | 瀬戸 | | 布袋香合ほり物灯台 | 7 | 61 |
| 682 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月七日 | 晩 | 小堀遠州 | 清拙 | 水仙 | かね筒花入 | 面へき茶入 | 水さし 備前 | 膳所 | 高麗茶碗 | | | 7 | 61 |
| 683 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月九日 | 朝 | 小堀遠州 | 一休 一行もの（中立 其まゝ） | 水仙 | 青し竹のこ花入 | 面へキ茶入 | 水さし 備前 | 右同（膳所） | | | 香合引切 | 7 | 61 |
| 684 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月一二日 | 晩 | 小堀遠州 | 清拙 | 花水仙 | 青地竹の子 | 在中庵 | 水指 備前 | 膳所やき | とゝや | | 香合 | 7 | 62 |
| 685 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月一三日 | 朝 | 小堀遠州 | 清拙 | 水仙 | 青し竹の子花入 | 在中庵 | 水指 備前 | せゝやき | とゝや | | 香合引切 布袋 | 7 | 62 |
| 686 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月一六日 | 朝 | 小堀遠州 | 右同（清拙） | | 右同（青し竹の子花入） | 右同（在中庵） | 茶入 水指 右同（水指 備前） | 右同（せゝやき） | 右同（とゝや） | | 右同（香合 布袋） | 7 | 62 |
| 687 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月二〇日 | 晩 | 小堀遠州 | 驢馬 国師賛（中立 掛物 其まゝ） | 水仙 | 青し竹の子花入 | 面へき | 備前水さし | 膳所やき | 斜高麗 | | 青し四方香炉青貝布袋香合 | 7 | 62 |
| 688 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月二三日 | 朝 | 小堀遠州 | 清拙 | 水仙 | あまつら | 在中庵 | 水さし 備前 | せゝやき | とゝや | | 布袋香合引切 | 7 | 63 |
| 689 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月二六日 | 朝 | 小堀遠州 | 清拙 | 水仙 | あまつら | 相坂茶入 五やうの盆乗テ | 水指 備前 | | とゝや | | 香合 布袋 | 7 | 64 |
| 690 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月二九日 | 朝 | 小堀遠州 | 清拙 | 梅 ふくつく | あまつら | 相坂ノ茶入 五葉ノ盆ニ乗 | 水指 備前 | | とゝや | | 布袋香合 | 7 | 64 |
| 691 | 一六三九 | 寛永一六年 | 一月晦日 | 朝 | 小堀遠州 | 清拙 | 草梅 ふくつく | あまつら | 在中庵 | 水指 備前 | | とゝや | | 布袋香合 | 7 | 64 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 692 | 一六三九 | 寛永一六年 | 二月三日 | 朝 | 小堀遠州 | 清拙 | 水仙 | あまつら | 在中庵 | 水指　備前 | せゝやき | とゝや | | 青し四方香炉　香合布袋 | 7 | 64 |
| 693 | 一六三九 | 寛永一六年 | 二月四日 | 朝 | 小堀遠州 | 驢馬 | ほけ　ふくつく草 | あまつら | 相坂　五葉盆三乗 | 水さし　備前 | | とゝや | | 青し四方香炉　香合　右同(布袋) | 7 | 64 |
| 694 | 一六三九 | 寛永一六年 | 二月五日 | 朝 | 小堀遠州 | 清拙 | 梅　ほけ | あまつら | 在中庵 | 水指　備前 | | 瀬戸 | | 青し四角香炉　香合　右同(布袋) | 7 | 65 |
| 695 | 一六三九 | 寛永一六年 | 二月七日 | 朝 | 小堀遠州 | 南浦 | 同(梅　ほけ) | 右同(あまつら) | 右同(在中庵) | 右同(備前) | | とゝや | | 香合　右同(青貝布袋) | 7 | 65 |
| 696 | 一六三九 | 寛永一六年 | 二月八日 | 朝 | 小堀遠州 | 清拙 | ほけ　椿 | あまつら | 相坂 | 水指　備前 | | いふう高麗 | | あゝし四角香炉　布袋香合　引切 | 7 | 65 |
| 697 | 一六三九 | 寛永一六年 | 二月一〇日 | 朝 | 小堀遠州 | 右同(清拙) | ほけ　ふくつく草 | 右同(あまつら) | 在中庵 | 水指(備前)　右同 | 膳所やき | 長崎高らい | | 右同(あゝし四角香炉　布袋香合) | 7 | 65 |
| 698 | 一六三九 | 寛永一六年 | 二月一二日 | 朝 | 小堀遠州 | 南浦 | ほけ　椿 | 右同(あまつら) | 右同し(在中庵) | 右同し(備前) | 右同し(膳所やき) | 右同し(長崎高らい) | | ふくへ　右ノ香合(布袋香合) | 7 | 66 |
| 699 | 一六三九 | 寛永一六年 | 二月一四日 | 朝 | 小堀遠州 | 驢馬 | 水仙　ほけ | 右同(あまつら) | 相坂 | 水指　備前 | がうし | 長崎高らい | | 右同(青地四方香炉　布袋香合) | 7 | 66 |
| 700 | 一六三九 | 寛永一六年 | 二月一五日 | 朝 | 小堀遠州 | 南浦 | 椿 | あまつら | 在中庵 | 水指　備前 | がうし | 非角高らい | | 布袋香合　引切 | 7 | 66 |
| 701 | 一六三九 | 寛永一六年 | 二月一六日 | 朝 | 小堀遠州 | 驢馬 | 水仙 | あまつら | 在中庵 | 水さし　備前 | かうし | せと | | 右同(布袋香合) | 7 | 67 |
| 702 | 一六三九 | 寛永一六年 | 二月一九日 | 朝 | 小堀遠州 | 右同(驢馬) | 紅梅 | 右同(あまつら) | 右同(在中庵) | 水さし(備前)　右同 | 銅合子 | 長崎高麗 | | 右同(布袋香合) | 7 | 67 |
| 703 | 一六三九 | 寛永一六年 | 二月二一日 | 朝 | 小堀遠州 | 南浦 | 紅梅 | 右同(あまつら) | 在中庵 | 水さし　備前 | 合子 | とゝや | | 金しゝ香炉　香合　右同(布袋香合) | 7 | 67 |
| 704 | 一六三九 | 寛永一六年 | 二月二五日 | 朝 | 小堀遠州 | 南浦 | 紅梅　椿 | あまつら | 在中庵 | 水さし　備前 | せゝやき | 瀬戸 | | かね獅子香炉　香合　右同(布袋香合) | 7 | 68 |
| 705 | 一六三九 | 寛永一六年 | 三月二日 | 朝 | 小堀遠州 | 南浦 | ほけ | あまつら | 在中庵 | 水指　備前 | 膳所やき | とゝや | | 布袋香合　引切 | 7 | 68 |
| 706 | 一六三九 | 寛永一六年 | 三月二日 | 晩 | 小堀遠州 | 国師　細字 | ほけ | 右同(あまつら) | 大瀬戸 | 水さし　備前 | せゝやき | 瀬戸 | | 布袋香合　引切 | 7 | 68 |
| 707 | 一六三九 | 寛永一六年 | 三月五日 | 朝 | 小堀遠州 | 驢馬 | 椿　こふし | 右同(あまつら) | 在中庵 | 水さし　備前 | せゝやき | 瀬戸 | | 香炉　布袋ノ香合　引切 | 7 | 69 |
| 708 | 一六四〇 | 寛永一七年 | 二月二四日 | 晩 | 藤林助之烝 | 春屋文字 | 紫ツゝシ・椿 | コトウ | 嶋物カ、肩衝ノ成也 | 水指備前、ヤトウカノヲイ、ヌリフタ | メンツ | 黒キ茶ワン | | 引切 | 4 | 358 |
| 709 | 一六四〇 | 寛永一七年 | 九月二〇日 | 昼 | 半井古庵 | 墨跡　玉室長文字 | | 備前 | 瀬戸しりふくら　くろ薬 | 備前 | | かうらい、こき手 | | 勝手一、シュブン絵　人形有ノ | 9 | 187 |
| 710 | 一六四〇 | 寛永一七年 | 一〇月二九日 | 昼 | 姉小路志广(摩) | 墨跡　利休ノ文 | | 備前 | 瀬戸　中かう | いかやき　瓢 | | 絵ノある茶碗 | | | 9 | 191 |
| 711 | 一六四〇 | 寛永一七年 | 一一月六日 | 昼 | 本阿弥宗知 | 墨跡　利休文馬ノ事有 | | 竹筒 | 瀬田 | 備前 | | 肥前 | | | 9 | 193 |
| 712 | 一六四〇 | 寛永一七年 | 一一月九日 | 昼 | 石川壱岐守 | 墨跡　古岳 | 梅菊 | 四方　耳ノアルモノ | ふ(しカ)りふくら　くろ薬　盆　丸キ、内赤、外黒 | 備前　ふかふた | | 高麗　やうノ入タル | かまほこ　干たい　へぎ二入 | 香箱　瀬戸ノねふと | 9 | 193 |
| 713 | 一六四〇 | 寛永一七年 | 一一月一〇日 | 昼 | 以策 | 墨跡　文室 | | 備前之筒 | 唐ノ棗 | 備前　ヒシ | | 肥後焼　絵有之 | きじ　塩かれい　へぎ二入 | 茶杓　休 | 9 | 194 |
| 714 | 一六四〇 | 寛永一七年 | 一一月一二日 | 昼 | 笠原長介 | 墨跡　東海　四字物印有 | 寒菊 | 竹筒 | はんだうノともふた | 備前 | | 高麗ノカタ手 | | 棚二鳥はうき | 9 | 194 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 715 | 一六四〇 | 寛永一七年 | 一一月一五日 | 朝 | 山村栄智 | 墨跡　大林之松<br>雲ト　二字横ニアル紙之<br>内<br>ちいさく<br>表具ノ中とんす、<br>一文字<br>カキ地ノきんらん、<br>上下ちや | 椿梅 | りうこ | 瀬戸しりぶくら | 備前 | | 高麗ヒラキ | | 棚二香箱　くわん<br>勝手ニ　雪舟ノしやか<br>一　丸キ<br>石鉢<br>石とうろ | 9 | 195 |
| 716 | 一六四〇 | 寛永一七年 | 一一月一九日 | 昼 | 川辺仁左衛門 | 墨跡　少一国師<br>之<br>かなふミ | 椿、寒菊 | 金ノ矢筒<br>両ニ耳有、耳ノ<br>キワニ節有、其内<br>ニ<br>もんあり、唐物也 | 産广(薩摩)肩衝 | 備前 | | 高麗、ゴキ手 | かまぼこ、小いた | | 9 | 196 |
| 717 | 一六四〇 | 寛永一七年 | 一一月二六日 | 昼 | 了佐 | 墨跡　利休自ヤイ<br>(辞世)ノうつし | | 備前之筒 | 瀬戸肩衝、ろくろ<br>めあり、□黄薬ニひく<br>ち<br>のあり、うらニ休判有<br>大棗　休判有 | 瀬戸、ろくろ<br>め、黄<br>薬あり | | 赤茶碗　しろきひ<br>くち<br>あり、長次郎 | 塩引<br>かうらい皿 | 香箱　フンタウ青貝<br>ほうろく　休判有 | 9 | 198 |
| 718 | 一六四〇 | 寛永一七年 | 一二月一〇日 | 朝 | 久甫 | 墨跡　少庵文 | つばき | 竹 | 肥後やき<br>さがら | 備前 | | | | 棚　鳥かうはこ | 9 | 200 |
| 719 | 一六四一 | 寛永一八年 | 五月三日 | 朝 | 武田道安 | 舜擧自畫自賛之<br>綿桃之繪 | | 花入筒、細川三斎<br>公被切竹也 | 茶入古瀬戸 | 水指伊部 | | 茶碗五器手 | | 茶杓者利休也　節之前寄茶杓也 | 14 | 1-311 |
| 720 | 一六四二 | 寛永一九年 | 一月二九日 | 夕 | 鳳林承章 | 雪村山水圖 | | | 玉津嶋 | 古備前 | | 茶碗五郎七焼 | | | 14 | 1-363 |
| 721 | 一六四二 | 寛永一九年 | 二月一〇日 | | 鳳林承章 | 仙洞御文之掛物 | | 高麗壺之花入 | 玉津嶋之茶入 | 古備前水指 | | 高原茶碗 | | 袋棚也　立濃茶也 | 14 | 1-369 |
| 722 | 一六四二 | 寛永一九年 | 三月二八日 | 晩 | | 無準絵賛 | | おとつれ | 大坂　袋段(緞)子 | 備前 | | 丸高麗 | | | 9 | 207 |
| 723 | 一六四三 | 寛永二〇年 | 五月二三日 | | | | 伊部焼之矢筒之<br>様之掛花入 | | 古瀬戸茶入[名祇園茶<br>入也] | 今伊賀之水指 | | 高原焼茶碗 | | 鳳林承章　茶道具一通遣于若林<br>小作也 | 14 | 1-473 |
| 724 | 一六四三 | 寛永二〇年 | 五月二六日 | 朝 | 小堀遠州 | 日観蒲萄ノ絵<br>キタンソウロクノ<br>賛 | | 青茲竹ノ子 | 玉柏 | 瀬戸 | 水滴　備前 | 蛛ノ染付 | | 堆朱彫物香合<br>引切 | 7 | 106 |
| 725 | 一六四三 | 寛永二〇年 | 五月二七日 | 朝 | 小堀遠州 | 右ノ(日観蒲萄ノ<br>絵キタンソウロ<br>クノ賛) | | 銅ノクダ耳 | 春慶瓢簞 | 瀬戸 | 水滴　備前 | 蛛ノ染付 | | 堆朱彫物両面香合<br>引切 | 7 | 106 |
| 726 | 一六四三 | 寛永二〇年 | 五月晦日 | 朝 | 小堀遠州 | 日観絵　季譚ノ<br>賛 | | 右之(銅ノクダ耳) | 肩衝 | 瀬戸 | 水滴　備前 | 蛛ノ染付 | | 青貝布袋香合<br>引切 | 7 | 107 |
| 727 | 一六四三 | 寛永二〇年 | 六月三日 | 朝 | 小堀遠州 | 両筆　大明国師<br>江月和尚加筆 | | 右之(銅ノクダ耳) | 肩衝 | 瀬戸 | 水滴　備前 | 井土 | | 銅鹿香炉<br>香合　赤キ蒔絵<br>引切 | 7 | 107 |
| 728 | 一六四三 | 寛永二〇年 | 七月二七日 | 朝 | 小堀遠州 | 一休　一行物 | | 胴ノヒヤウ | 肩衝 | 瀬戸 | 水滴　備前 | 高麗 | | 青茲鹿耳<br>香合　青貝　蝶<br>引切 | 7 | 107 |
| 729 | 一六四三 | 寛永二〇年 | 八月八日 | 朝 | 小堀遠州 | 龍皆<br>鑑国師賛　驢馬　円 | | カネノ丸 | 飛鳥川 | せト | 水滴　備前 | 右ノ(雲ノ染付茶わ<br>ん) | | | 7 | 107 |
| 730 | 一六四三 | 寛永二〇年 | 八月二六日 | 朝 | 小堀遠州 | 一休 | | 銅ノ丸キ | 肩衝　口広 | セト | 水滴　備前 | 高麗 | | 香合　貝<br>引切 | 7 | 108 |
| 731 | 一六四三 | 寛永二〇年 | 九月三日 | 朝 | 小堀遠州 | 一休 | | ナシ | 肩衝 | 瀬戸 | 水滴　備前 | 瀬戸 | | 青茲香合<br>引切 | 7 | 108 |
| 732 | 一六四三 | 寛永二〇年 | 一二月二六日 | 朝 | 小堀遠州 | 円鑑国師 | 水仙 | ヒヤウロ | 瀬戸　大津 | 瀬戸　耳付 | こほし物　平<br>古備前　後 | ひすミ　高麗　柴 | | 香合　かに<br>引切 | 7 | 112 |
| 733 | 一六四四 | 正保元年 | 一月一日 | 晩 | 小堀遠州 | 定家　大井川歌 | | | 口広 | 瀬戸　星合 | こほし物　平<br>古備前　後 | こきて　ひすミ | | 足打ニかゝミ<br>引切 | 7 | 112 |
| 734 | 一六四四 | 正保元年 | 一月三日 | 晩 | 小堀遠州 | 定家　大井川歌 | 梅 | | 瀬戸　大津 | 瀬戸　星合 | こほし物　平<br>古備前　後 | 長崎高麗 | | 香合　貝　梅<br>引切 | 7 | 113 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 735 | 一六四四 | 正保元年 | 一月五日 | 晩 | 小堀遠州 | 定家　大井川歌 | 水仙 | ヒヤウロ | 大津 | 瀬戸　星合 | こほし物　前後　古備 | 橘高麗 | | | 7 | 113 |
| 736 | 一六四四 | 正保元年 | 一月六日 | 晩 | 小堀遠州 | 虚堂 | 仙ふくつく　水 | 瓶口　勘平 | 大津 | 瀬戸　星合 | こほし物　江戸　後　備前 | 瀬戸 | | 香合　布袋 | 7 | 113 |
| 737 | 一六四四 | 正保元年 | 一月二三日 | 朝 | 小堀遠州 | 円鑑国師 | 梅　ふくつく | 雪折 | 大津 | 瀬戸　星合 | こほし物　前後　古備 | | | | 7 | 114 |
| 738 | 一六四四 | 正保元年 | 二月四日 | 晩 | 小堀遠州 | 虚堂 | 梅　白玉 | 青磁　かふらな し | 瀬戸　宗貞 | 瀬戸　星合 | こほし物　前　古備 | 高麗　ひすミ | | 香合　貝　蟹 | 7 | 114 |
| 739 | 一六四四 | 正保元年 | 二月五日 | 朝 | 小堀遠州 | 虚堂 | 梅　白玉 | 瓶口 | 大津 | 瀬戸　星合 | こほし物　前　古備 | 高麗　ヒスミ | | 香炉 | 7 | 114 |
| 740 | 一六四四 | 正保元年 | 六月四日 | 晩 | 竹田慶庵 | 墨跡　絵、李安忠筆　うつらの | | | 瀬戸肩衝、黄ナタレノ有もの | 古備前　平口　有 | かね、ゑふこ | 三嶋 | | 香箱　堆朱 | 9 | 226 |
| 741 | 一六四四 | 正保元年 | 六月二五日 | 晩 | 養卓 | 墨跡　古渓一行物 | | 古備前　掛 | すんきり | 瀬戸 | | 高麗 | | | 9 | 227 |
| 742 | 一六四四 | 正保元年 | 七月一七日 | 朝 | 後藤宗与 | 清厳　一行物 | | | 瀬戸　中かう かたつき | 備前 | | 瀬戸　くわんやう | | 棚二茶入、茶碗　鳥はうき　置合　茶杓　利休 | 9 | 223 |
| 743 | 一六四四 | 正保元年 | 一一月一四日 | 晩 | 渡部一学 | 後二　春屋二行物 | 水仙　菊 | 尺八 | 丸肩ツキ　かき薬二くろきなたれ　有 | 備前　ぬりふた　ヒシ | | ごき手　名ヲ云　おたまき | 大ひら皿　たうふ　しやうゆふ　わさ　びおき | 香箱　鳥はうき　堆朱、大キナル　下ノ棚二　上ノ棚二ひやうたん　すみ入　茶杓　織部 | 9 | 228 |
| 744 | 一六四五 | 正保二年 | 四月一日 | 昼 | 壺や長兵衛 | 墨跡　絵山水 | | 竹　自 | 新 | 備前　つば | | 黒茶碗　さかい | | | 9 | 230 |
| 745 | 一六四五 | 正保二年 | 四月二六日 | 昼 | 慮南 | 墨跡　光悦歌 | | | しからき | 瀬戸　耳付 | 備前 | 高麗　ゴキテ | | 棚二鳥はうき　香箱 | 9 | 231 |
| 746 | 一六四五 | 正保二年 | 五月一日 | 昼 | 石川宗玄 | 墨跡　定家きれ　第（題）歌　しゆ　有　表具中　かな地　金らん　白段（緞）　上下　子 | | かねノ物　ぞろ　り | 上　丸壺　上薬　大キナルモノ　黄なたれ有 | 下　備前 | | 上　瀬戸　ひくちノ有 | | | 9 | 232 |
| 747 | 一六四五 | 正保二年 | 六月二七日 | 朝 | 笠原長助 | 後二　墨跡　国師　てな（か脱カ）き　物 | あさかほ | 竹筒尺八 | 肩ツキ　きなたれあ　り　小キ | ひぜん　ひらき　丸 | やき物　丸キ | 高麗　かた手 | | | 9 | 236 |
| 748 | 一六四五 | 正保二年 | 七月一一日 | 朝 | 石川（河）素閑 | 墨跡　定家ノ有　宗易文　上 | あさかほ | ひやうたん | 中裏　宗易　字のより）来ル由候　有馬ち（旧 | 備せん　ひら　き | | 瀬戸くろき　しふかミ | | | 9 | 236 |
| 749 | 一六四五 | 正保二年 | 八月一二日 | 昼 | 小堀や久徳 | 墨跡　沢庵歌 | | 金ノ筒 | ろてい　唐物　土赤キ　なたれ薬有 | 備前　ちいさ　き | | 中位　コキ手　中ころ | | 棚二かうはこ　茶杓　織部　堆朱　鳥はうき | 9 | 236 |
| 750 | 一六四五 | 正保二年 | 八月一五日 | 昼 | 御影堂文阿弥 | 墨跡　宗易　四十石と有　判　次二　国師　有　書天祐　沢庵　詩歌　横物　奥 | | | 瀬戸なすび　しりくろくすり | 備前 | | 高麗ひらき | | | 9 | 237 |
| 751 | 一六四五 | 正保二年 | 八月一七日 | 朝 | 石川素閑 | | | 竹尺八 | | 備前　ひらき | | 堺　赤茶碗 | | | 9 | 237 |
| 752 | 一六四五 | 正保二年 | 九月一五日 | 昼 | 大植宗不 | 墨跡　利休歌　両筆 | | かねのかうじ口　りうご　墨跡其　まゝ | 瀬戸、大かたつき　くろ薬 | 備前 | | 高麗、くわんよう | | | 9 | 238 |
| 753 | 一六四六 | 正保三年 | 二月二九日 | 朝 | 不審庵 | 墨跡　沢庵文　横物 | | | 床に茶入、茶碗二入　備前 | しからき | ひせんやき物 | かうらい | | 竹ノふた置 | 9 | 240 |
| 754 | 一六四六 | 正保三年 | 三月七日 | 朝 | 石井宗有 | 梅山一如賛ノ布　袋 | コテマリ、白玉 | 長キ　コトウ | クロキ　春慶肩衝 | 備前　水指　マリノ | | セト茶ワン | | | 4 | 409 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 755 | 一六四六 | 正保三年 | 三月二三日 | | 知存 | | | 二重筒 | | 備前 | | 肥前焼 | | 棚二棗、鳥はうき置合 | 9 | 242 |
| 756 | 一六四六 | 正保三年 | 三月二五日 | 昼 | 半井古庵 | 墨跡 宗易文上 | | かねノきしの尾さし申候小キもの | 瀬戸ノカキ、黄なたれ有 | 備前 | | いまり焼 | | | 9 | 243 |
| 757 | 一六四六 | 正保三年 | 三月二六日 | 朝 | 宗仁 | 墨跡 宗易文 | | かご | いものこ | 備前 耳ノ | | かうらい | | | 9 | 243 |
| 758 | 一六四七 | 正保四年 | 五月一九日 | 朝 | 大植宗不 | 墨跡 利紹両筆 | | 青ぢきぬた | 棚二茶入さつま 丸かたつき | 四角 しから き | 丸キ びせん | かうらい | | | 9 | 253 |
| 759 | 一六四七 | 正保四年 | 一〇月一日 | 飯後 | 壺や長兵衛 | | 菊 | 一重 竹 | | 備前 | | 黒 | | | 9 | 254 |
| 760 | 一六四七 | 正保四年 | 一〇月一一日 | 昼 | 周覚 | 墨跡 清厳 | | | 棗 新 | 備前 | | かうらい いと手 ひらき われ申候 | | 香箱 張成(盛) ふじのミなり | 9 | 255 |
| 761 | 一六四七 | 正保四年 | 一一月三日 | | ちそん | ほくせき たう はく(等伯)ゑ たけ二すゝめ | | びせん | はきやき かたつき | | | せと、ひらき | | | 9 | 256 |
| 762 | 一六四七 | 正保四年 | 一一月一九日 | | 朱や宗因 | | | 竹筒 宗和 | 小なつめ 成(盛)阿弥 | 備前 | | からつ | | | 9 | 258 |
| 763 | 一六四七 | 正保四年 | 一一月二一日 | 朝 | 大森玄仙 | 墨跡 柏樹、玉室 | | 竹之筒 | 茶入 | 備前 | | かうらい | | | 9 | 258 |
| 764 | 一六四七 | 正保四年 | 一二月八日 | | 玉舟 | 墨跡 絵賛 | | 金ノ筒 | 瀬戸、かたつき | 備前 た ともふ | | 高麗 | | 香炉 青慈(磁) 書院一 硯銅 蓋雀軒ト名有 大海 易作 | 9 | 259 |
| 765 | 一六四七 | 正保四年 | 一二月一五日 | 晩夜咄 | 大森玄仙 | | | 備前 | なつめ 新 | つほなり | | 黒茶碗 | | | 9 | 260 |
| 766 | 一六四七 | 正保四年 | 一二月一七日 | | 宗仁 | 墨跡 古岳 | | 新 | 瀬戸、しりふくら | 備前 | | | | | 9 | 260 |
| 767 | 一六四九 | 慶安二年 | 二月一六日 | 昼 | 大植宗不 | 墨跡 宗易 二首之歌 周覚 | | しからき はた か | 瀬戸大肩衝 袋かん とう 黒薬 | 備前やき | | 高麗 ひくちノ有 | | | 9 | 264 |
| 768 | 一六四九 | 慶安二年 | 二月二一日 | 昼 | 壺紹閑 | 墨跡 天祐 道号 | | | | すき曲物 | | 黒碗 | | | 9 | 265 |
| 769 | 一六四九 | 慶安二年 | 二月二六日 | 昼 | 慮南 | 墨跡 宗易歌 杉原一枚もの | | 尺八 | 瀬戸 姥口 たいこの たう | 備前 口ノ内 へ入タル | | 高麗 かた手 | | | 9 | 266 |
| 770 | 一六四九 | 慶安二年 | 四月一日 | 昼 | 久甫 | 墨跡 らんけい 二字物 | | 易 尺八 | 棗 | 口ノ広 なん はん物 | 高キ備前 | 黒 長二郎 | | | 9 | 269 |
| 771 | 一六四九 | 慶安二年 | 四月二日 | 朝 | 後藤程乗 | 墨跡 一休 横物 杉原一枚 ほとの物 古キ詩有 次ニしゆんせい、 ていか、為家三幅 一対 きれ | | 一重竹 遠州 | くちびろ 瀬戸 | 備前 | やき物 高キ | 高麗かた手、ひらき 見事 こき□手茶碗 見事 | | | 9 | 269 |
| 772 | 一六四九 | 慶安二年 | 六月一八日 | | 素閑 | 墨跡 春浦文 | | 四角 金から物 ちやうみゝ | 棗 新 | | | かうらい ひらき | | | 9 | 271 |
| 773 | 一六四九 | 慶安二年 | 七月二三日と八月一四日の間 | | 石川宗玄 | 墨跡 定家の切歌一種(首)有 | | 竹 尺八 | 棗 新 | 備前 はたか | | 高麗 ひらき | | | 9 | 273 |
| 774 | 一六四九 | 慶安二年 | 九月二三日 | 朝 | 石川宗玄 | 墨跡 玉室文 | | 尺八 | 瀬戸、かたまるく、ほり出しの手 | 備前 耳ノ有 モノ | | 瀬戸 上 | | | 9 | 274 |
| 775 | 一六四九 | | 一一月一八日 | | 安兵衛 | 墨跡 一山 絵賛 | | 竹ノ筒 旦 | びせん 新 | ひぜん | | 織部 | | | 9 | 276 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 776 | 一六五〇 | 慶安三年 | 三月一日 | 昼 | 老父 | 墨跡 山水 絵 周文 | | | 備前 しりふくら | 袋棚に水指 備前 ふた ども | こうし かね | | | | 9 | 277 |
| 777 | 一六五〇 | 慶安三年 | 三月二五日 | 朝 | 小四郎 | 墨跡 国師 | | 竹二重 | かたつき おちぼ | びせん | | 高麗 たまご手 | | | 9 | 279 |
| 778 | 一六五一 | 慶安四年 | 二月一六日 | 昼 | 宗茂 | 墨跡 元伯 絵 さん | | 備前 小キ | しぶかミ | しからき | | 御室 | | | 9 | 280 |
| 779 | 一六五一 | 慶安四年 | 三月一二日 | 朝 | 宗印 | 墨跡 歌 | | りうこ 京やき | さつまやき | 備前 ひらき | | 高麗 ゴキ手 | | | 9 | 282 |
| 780 | 一六五一 | 慶安四年 | 三月二三日 | 昼 | 半井古庵 | 墨跡 大甲(太閤)様 一かき一枚者(物) | | | 古備前 丸、かたつき | あかの水つき | さはり | 高麗 新 | | さいろう 上〻 | 9 | 282 |
| 781 | 一六五一 | 慶安四年 | 三月二九日 | 昼 | 知存 | 墨跡 後陽前(成)院様 詩歌 | | 古備前 | 棗 中 易 | 肥前 | | 高麗、ゴキ手、はたか | | | 9 | 283 |
| 782 | 一六五二 | 承応元年 | 七月一九日 | 朝 | 金森宗和 | 何もかゝらす | | | 備前焼 水指の前ニ 袋ニ入テ 赤きおつかり | 御室 | 御室 | 御室こきて | | 茶 長井 | 10 | 266 |
| 783 | 一六五二 | 承応元年 | 一〇月一一日 | | 金森宗和 | 書院 つはめの絵 記 十九人して御書 印有 | | | 八足の棚ニ上ニ茶碗・棗置合 | なつめの下に 備前水指塗 ふたつまミ 丸せひしのふ たの置合 | | | | せひしのふた | 10 | 267 |
| 784 | 一六五三 | 承応二年 | 二月一四日 | 昼 | 金森宗和 | 利休ノ硯記 下ちや 中かき 上 一文字こひあ さき 黒しく | 青もみ かうはい | 丸板 但矢ばつ 十八目 花入 備前 | | 藤の絵有之 | めんつう | おむろこうらひ | 御室鮒 鱠くり きんかん 黒盃ふたニして なんきん皿ニ吸物鶴 とらのいも ふきミそに | たなニくわん右 黒羽左 さひろう 桑柄の火はし 内ニは まくりのかうはこ ほうろくおむろ 水次かた口 へひの方ニ茶入・引切・ほうろく くき ひしやく御かけ | 10 | 271 |
| 785 | 一六五三 | 承応二年 | 二月一四日 | 昼 | 金森宗和 | | | | 棗蒔絵 | 大板に一目違 たらひの水さ し 真中柄杓 | こほし備前 | 茶碗御室 | | 青磁ふた置 | 10 | 271 |
| 786 | 一六五三 | 承応二年 | 八月六日 | 朝 | 老父 | 墨跡 ハねタイモク | | 金ノ筒 | しりふくら 粟田口 | 備前 たん ひやう | | 瀬戸、小キ | | | 9 | 288 |
| 787 | 一六五三 | 承応二年 | 八月一四日 | 朝後 | 長円 | | | 京やき 魚耳 | しりふくら 粟田口 | 備前 | | 黒茶碗 | | | 9 | 288 |
| 788 | 一六五三 | 承応二年 | 九月一九日 | 朝 | 金森宗和 | ちうこのかけ物 さゝの絵 | | | 上棚ニなつめ菊の古き 物 | 水さし備前 ふくさ水さし の脇ニ | 青地 | 染付の茶碗 | | 縁 塗ふち ふしのたんす 十六目内ニ棚一重有 柄杓 青地人形の蓋置 たんすの上に黒鶴羽ほうき 茶杓 慈せう(照)院 さいろう 中之上 | 10 | 278 |
| 789 | 一六五三 | 承応二年 | 一〇月八日 | 昼 | 半井古庵 | 墨跡 玉室文 | | 瀬戸 掛 | 棗 一服入 上 | 備前 | | 今渡 | | | 9 | 289 |
| 790 | 一六五三 | 承応二年 | 一〇月一〇日 | 昼 | 石川宗玄 | 墨跡 卜斎 | | そろり くた耳 | 瀬戸、中かうかたつき、くろ薬 | 備前 | | 今かうらい | | | 9 | 290 |
| 791 | 一六五三 | 承応二年 | 一〇月二一日 | 昼 | 錦や十右衛門 | 墨跡 沢庵 歌 | | | しゆんけい | 備前 | | 瀬戸 | | 壺 | 9 | 290 |
| 792 | 一六五三 | 承応二年 | 一一月一二日 | 昼 | 芳春院 | 墨跡 大燈 原一枚ニ写也 杉 | | のんかうやき | 丸壺 薬ノはたらきた る物 袋もふる、しま、赤筋 | 備前 共ふた | | 今高麗、上 | | | 9 | 294 |
| 793 | 一六五四 | 承応三年 | 一月一三日 | | 宗守 | 墨跡 宗易文 | | 備前 | 御室やき | 備前 | | かうらい | | | 9 | 298 |
| 794 | 一六五四 | 承応三年 | 一月一三日 | 昼 | 善応 | 墨跡 天祐賛 絵 主馬 | | 一重竹 | 棗 紹鷗 中 | 備前 | | 今かうらい | | | 9 | 298 |
| 795 | 一六五四 | 承応三年 | 二月四日 | 朝 | 宗印 | 墨跡 易文 新 安と在之 | | 瀬戸、りうこの手、つゝミの筒(胴) | 瀬戸、かたつき、キ薬 見事ナルモノ | 備前 中かう | | かうらい、コキ手 ワれ申候 | | | 9 | 299 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 796 | 一六五四 | 承応三年 | 二月一〇日 | 昼 | 後藤四郎三郎 | 墨跡 易横文<br>桑山式部殿と在之候 | | 古キ竹 尺八 | なるミやき かたつき | 備前 | | 瀬戸、丸キ | | 茶杓 宗易 | 9 | 300 |
| 797 | 一六五四 | 承応三年 | 三月二日 | 昼 | 金森宗和 | | 花ことしゆう<br>白くわん菊 | 備前花入 四角<br>薄板 | 水指脇ニめんとりの茶<br>薬の茶入 | 御室くるくは<br>たかやき | | 染付茶碗 | | 茶杓織部殿 | 10 | 284 |
| 798 | 一六五四 | 承応三年 | 三月一七日 | 朝 | 金森宗和 | 利休文 | さしゆり<br>すゝきはな | 備前花入 薄板<br>四角 | 御室の口長 | 四角くるく水<br>さしニて<br>くるくはたか<br>やき 前ニ御<br>室の口長 | 御室 | 茶碗白高麗 | 小つほ皿 ねり味噌<br>こんにやく 黒わん<br>かた丸 汁 たうふ<br>つけ松茸 竹のこ わらひ<br>うすミ 編笠皿いり酒 もゝけ こひの<br>はちニ 鯉のさしみ 渦の 子つけニ<br>青はし 御室茶わん皿 吸<br>物 くしらのすし めうか | 棚ニ鎮・羽箒<br>さいろう そうけ柄の火はし<br>合 香<br>ふしなし引切 | 10 | 283 |
| 799 | 一六五四 | 承応三年 | 六月八日 | 朝 | 若狭 | 墨跡 ボク斎、無<br>ノ字 | | 竹筒 ノかん(貫)<br>作 | 瀬戸耳付 佐久間 | 備前 ひし | | 瀬戸 ひらき | | | 9 | 303 |
| 800 | 一六五四 | 承応三年 | 一一月一二日 | | 金森宗和 | 一休乾坤墨跡 | はなハちやノは<br>な一色 | 備前 | 淡路島 | 信楽水さし塗<br>ふた | めんつう | はけめ | 耳くらけ・こたゝミ<br>料理ニして小壺ニ<br>ニへき 足打<br>引て かうの物 くきあさ<br>つけ 御室鉢ニ<br>おむろ菊 四かくさら あたゝ<br>めなます 鯛・大こん・せり<br>たゝき・みつかん にんし<br>ん・はすいも<br>たいな酒いり 鴨入 なへ<br>なから出ル<br>そめつけちよく 肴海鼠腸<br>吸物 白とろゝ・もつく入<br>御室ちやわん皿<br>むきこハ飯もつそう・いふき<br>大こんにしめて 長菊盆<br>むきくり そめつけはちニ | 棚ニ御室さいの香合 脇羽箒<br>ふくへ<br>飛騨片口 | | 10 | 307 |
| 801 | 一六五四 | 承応三年 | 一一月二八日 | | 金森宗和 | 楚石 | 牡丹・はりノ木 | 備前瓢簞 | 瀬戸驢蹄 | 南蛮物 | めんつう | 御室赤丸絵 | 平皿 柚・かまはこ・いて雑子<br>ほそくさき あたためいり酒<br>そめつけちよくニこのわた<br>へき 汁ミそつけかも・ふと<br>せりこくち切 大こん<br>引て かうの物ちうはこ<br>御室鉢ニくきのあさつけ<br>御室たこ皿 あたゝめなま<br>す道具前のことく<br>なへなからいつる鯛ニな・かも<br>入 酒いり<br>そめ付四かくはち ひたら<br>はなかつほ入置<br>たんこ 可首鳥にしめてへき<br>ニ 水くりそめ つけノはち | 棚ニさいのかう箱・羽箒<br>すミ取ふくへ<br>飛騨片口 | | 10 | 309 |
| 802 | 一六五五 | 明暦元年 | 一月二六日 | | 金森宗和 | 弥勒一休かけ物 | はなひとゑこ<br>うばい<br>せうとう花・な<br>のはな | 籠 | 祖母懐 | 水指口広古備<br>前 | めんつう | 御室内白くすり外<br>かき | 赤絵ちよくニ海鼠腸<br>真鰹やきてへきに 鴨うすた<br>れ煮なへなから出ル<br>染付はちニ、さかなうミたけ、<br>ひたらやきてはなかつほ置、<br>なまこ小さらニ青すニて、す<br>い物あまさきもつく入 あ<br>さきわんニ<br>くさもちこんにやくにしめて<br>へきニ、むきくりそめ付はち<br>ニ | 棚羽箒斗<br>すミ取ふくへ・水次肩くち | 10 | 320 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 803 | 一六五五 | 明暦元年 | 二月九日 | | 金森宗和 | 竺僊墨跡 | 花せうとうく<br>わ・れんけう・<br>こふし | 耳付かけはな入 | から物大しりふくら、<br>ほり物丸盆居 | 水指口広備前 | めんつう | 御室内白外かきく<br>すり | 平皿　に物つけわらひ・白う<br>を　こんぶ・きんあん・いなの<br>うす<br>ちょく二鮭すし子<br>焼鮒御室焼皿二ふなまん中<br>斗<br>鯛塩引かねもつかう皿<br>鮒なますうと・くり・やき頭<br>みつかんわきり<br>大つほさら二すい物鶴・竹子<br>入<br>草餅・さからめ・小ひうをや<br>きてへきに、むきくりハそめつ<br>けのはち二 | 棚羽箒はかり、すミ取ふくへ<br>水次片口 | 10 | 324 |
| 804 | 一六五五 | 明暦元年 | 二月二三日 | 昼 | 佐々木孫左衛門 | 墨跡　乾英横物<br>二字 | | 一重竹　旦作 | かたつき　のんかうや<br>き | 備前 | | 黒　古 | | | 9 | 305 |
| 805 | 一六五五 | 明暦元年 | 二月二四日 | | 金森宗和 | 奥山の記 | はなもくまめ<br>ふし | むすひへうたん | 御室ちやわん二から物<br>大しりふくら入、下た<br>な二かさり、わき二羽<br>箒 | 水さしゑん広<br>備前耳付 | かねのこほし | 御室ちやわん | 赤絵青地皿二あたゝめ膾道<br>具前のことく<br>ちよく二<br>引て　かうの物御室鉢二ほ<br>し大こん・くき<br>に物如右大つほ皿二<br>かも大キ二切、いり酒二て<br>生たい・ふり切、いりてなへな<br>から出ル<br>煎海鼠煮いり酒かけちうは<br>こ二<br>はすのすし　その付四かく<br>はちニ<br>すいものうくいす竹かさめ入<br>ひつミわん二たんこへきにすへ<br>わかめ・むきくり・大くろくハ<br>いそめ付はち | 水次片口<br>勅筆ノ金具 | 10 | 327 |
| 806 | 一六五五 | 明暦元年 | 二月二七日 | 昼 | 宗守 | 墨跡　翠岩(厳)<br>旦　和韵(韻) | | 青茲(磁) | なつめ、かたつき<br>盆二ノリ、きんま | 備前 | | 今高麗 | | | 9 | 305 |
| 807 | 一六五五 | 明暦元年 | 三月二三日 | 朝 | 喜兵 | 墨跡　宗易　狂<br>歌　六首有文<br>上 | | 備前之花入 | 瀬戸、かたつき、うすか<br>き手 | 不織之手 | | かうらい　古　ひら<br>き | | | 9 | 307 |
| 808 | 一六五五 | 明暦元年 | 三月二六日 | 昼 | 針や宗春 | 墨跡　国師一行<br>物　老倒一 | | 船 | 瀬戸　しりふくら | 備前 | | 高麗　わりかうたい<br>くわんよう　四方 | | | 9 | 308 |
| 809 | 一六五五 | 明暦元年 | 四月二七日 | 昼 | 金森宗和 | 徳厚古田 | 江戸木蓮花・い<br>とくり | 丸薄板十六目<br>かね四角　白き<br>丸たかいとけり<br>四かくせい高 | 水さし前二　備前<br>こふしをつかり赤き<br>ちゃ入備前<br>棗 | 御室薬かけぬ<br>り蓋<br>御室くすりは<br>け | 水建御室<br>こほし御室なハ<br>すたれ | 御室茶碗こきて<br>茶碗御室 | 御室茶碗内花輪違錦手鱠鮎さ<br>んせう　かれひ　くらけ　く<br>り　さわな　はうふう　うと<br>きんかん　はらこ　おろし<br>瀬戸ちょく二つけさんせう　汁<br>ねいも　あわひ<br>小坪皿　煮物練味噌　白魚<br>こんにやく　きんかん　うす<br>こんふ　物室手あかはち二<br>香の物いろくく<br>染つけ　干鯛かつを<br>御室はち　みのすし<br>いまりゆり皿内輪違　すみそ<br>むし竹　ひら竹<br>御室あミ蛤むきミ　からし<br>あたゝめて<br>御室縁二花輪ちかひ　初茸・水<br>くり・杉やうし | | 羽ほうき<br>柄杓・竹輪あふり竹二入竹にて、<br>御茶立<br>新茶<br>棚二御室やき鷺玉子香合、羽はゝ<br>き<br>い(ひ脱カ)つさいろう・輪火箸・水<br>次ね比 | 10 | 294・333 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 810 | 一六五五 | 明暦元年 | 五月一〇日 | 昼 | 八文字や彦兵衛 | 墨跡 無学ソケン 横(衍カ)物 | | 竹 旦作 | 丸壺 黒薬 たすき なたれ有 大キナルもの 盆ニノリ | 備前 ぬりふた | | 新、赤 | | | 9 | 310 |
| 811 | 一六五五 | 明暦元年 | 六月一五日 | 朝 | 興善院 | 墨跡 為すけノ切 | | 竹之船 | 瀬戸、中かう、かたつき | 備前 丸、大キ | | 高麗 かた手 | | | 9 | 311 |
| 812 | 一六五五 | 明暦元年 | 八月六日 | | 金森宗和 | 春浦墨跡 | はな白水草・山もゝニ似花 | 花入備前くちニ梅花の耳有 | 御室せい高 | 水指上下菊ニ割たる | 御室やき | 茶碗御室内白外かき | 俄豆腐 青貝わんニ 大こんをろし からし なます つくし ふち菊なりのさらニ まなかつほやきへきに 吸物酒麩 わさひ かけ ちうはこ | | 10 | 348 |
| 813 | 一六五五 | 明暦元年 | 八月二一日 | | 金森宗和 | 春浦墨跡 | 草ふし | 備前へうたん | 古唐津やき | 御室青薬 | なハすたれ | 御室内白外かき | あミかさちよくニしほから まなかつほやきへきに なます青地赤絵皿ニ 酒麩わさひかけ くつ入て ちうはこニて すい物とう瓜 御室ちやわん 菓子 一御前へハ御室やき赤絵高つきに | 棚 御室玉子ニ 鶴かう合・羽箒 すミ取長細籠 水次ねころ | 10 | 349 |
| 814 | 一六五五 | 明暦元年 | 八月二四日 | | 金森宗和 | 宗祇墨跡 | はな草藤 | 備前へうたん | 高原やき新躬 | 御室青くすり | なハすたれ | 茶碗内白外かき | あミかさちよくニしほから なへなから出ル水漬鴨はな かつほ めうか・なまたれ 鱸やきて青くしへきニ 麩煮てくつ・わさひ ちうはこ 膾 青地赤絵皿ニ 湯の前 くりのこもち ひつミわんニ | たなニむすひ文かうはこ 羽箒 すミ取長細籠 水次御室焼ひつミくち・ぬりふた | 10 | 350 |
| 815 | 一六五五 | 明暦元年 | 一一月一六日 | | 金森宗和 | | 水仙・白梅 | 竹尺八花入 | | はたかやき八角・ぬりふた | 備前 | | | 台子飾あり ひしやく立ひせん ほやかうろ・八角ほん | 10 | 356 |
| 816 | 一六五五 | 明暦元年 | 一二月一八日 | 昼 | 石即庵 | 墨跡 清厳 | | 備前 懸 | 瀬戸 | | | | | | 9 | 314 |
| 817 | 一六五六 | 明暦二年 | 四月一〇日 | 昼 | 金森宗和 | 利休横判 | | かねの大キ | からつ | 古備前 | しからきほう長 | ひはり 持出 | | 棚 三角かうはこ・羽 | 10 | 358 |
| 818 | 一六五六 | 明暦二年 | 四月一二日 | 晩 | 金森宗和 | 古岳 | | 船花入 | ともふた さしのまへニ 慶長 水 | 古ひせん | 長しからき | 大こき | | 棚二三角香合・羽 しきみニひしやく ひつきり 茶碗 | 10 | 358 |
| 819 | 一六五六 | 明暦二年 | 四月一四日 | 昼 | 金森宗和 | 古岳 | | | からつ | 古備前 | | へにさら | 鶏のせんは坪皿 なます あミかさなり皿 とうふあふりニて 引て かうの物色々御室鉢ニ まなかつをへき へきニ 奥津鯛かつをかけ かうらい鉢 | 棚二三角香合・羽、瓢にて炭 ひしやく立懸 ひつきり | 10 | 359 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 820 | 一六五六 | 明暦二年 | 四月一五日 | 昼 | 金森宗和 | 古岳 | はなわちかへ<br>けし・あほき<br>花 | 中かぶら | からつ | 古備前 | 古しからき | へにさら | 鶴せんは小坪皿ニ　引てかう<br>の物<br>鯛むし葛たまり懸　大坪皿<br>ニ<br>奥津鯛かつほ懸、こうらい鉢<br>ニ<br>鶴へき鳥 | 棚　三角香合・羽 | 10 | 360 |
| 821 | 一六五六 | 明暦二年 | 四月一九日 | 昼 | 金森宗和 | 春浦 | | 前のあか色かねの<br>物 | 庄三郎 | 古備前 | 古しからき | ひはり | 鶴せんは坪皿　ふち朱折敷<br>うにやきかハらけ<br>ひつミあミかさいり酒　鯉子<br>付すふ鉢ニ<br>とうふあふりにて平皿ニ<br>菓子たんこ　竹の子　くり<br>くわひ　長菊盆ニ<br>酒出　かさうあゆへき　青す<br>木具<br>なます　うにやき　引て真鰹<br>へき　干魚かつをかけ　こう<br>らい鉢ニ<br>とうふひらさらニ<br>菓子へきに　たんこ・竹子<br>ふと　きくほんニ | 棚　染付くハら・羽　瓢ニて炭 | 10 | 360 |
| 822 | 一六五六 | 明暦二年 | 四月二一日 | 晩 | 金森宗和 | 一休 | | 口ひろかねの花入<br>うす板ニ | 庄三郎 | 古備前水さし | 古しからき | | | 棚ニ上鷺かう箱・羽 | 10 | 361 |
| 823 | 一六五六 | 明暦二年 | 四月二四日 | 晩 | 金森宗和 | 古岳 | | くちひろかねの花<br>入 | からつかたつき | 古備前 | 古しからき | くろちやわん<br>白はなわちかへ　内 | | 棚　鷺香合・羽　瓢ニて炭 | 10 | 361 |
| 824 | 一六五七 | 明暦二年 | 五月一四日 | | 聚楽清左衛門 | | | きやうき | 丸壺　瀬戸 | 備前 | | かうらい | | 茶杓　利休 | 9 | 318 |
| 825 | 一六五七 | 明暦二年 | 六月一五日 | 朝 | 宗守 | | | 備前 | 瀬戸、かたつき | | | そめ付 | | | 9 | 319 |
| 826 | 一六五七 | 明暦三年 | 六月二七日 | 朝 | 二徳 | 墨跡　清岩(厳) | | 豊前焼 | 備前、肩衝 | | | 高麗 | | 茶杓　利休 | 9 | 320 |
| 827 | 一六五九 | 万治二年 | 三月九日 | | 善応 | 墨跡　文　旦 | | 瀬戸　懸 | 瀬戸　小キ　キン花 | たらい　備前 | | 黒　長二郎 | | | 9 | 332 |
| 828 | 一六五九 | 万治二年 | 四月一二日 | | 興善院 | 墨跡　利休文<br>判 | | かねノ | 瀬戸、かたつき | 備前 | | 京焼　文有 | | 茶杓　道安 | 9 | 333 |
| 829 | 一六五九 | 万治二年 | 四月二二日 | 昼 | 瀬尾次兵 | 墨跡　大文字<br>ソクシ(即之) | | かこ | しふかミ　肩衝 | 備前手桶 | | 高麗　ひらき | | | 9 | 335 |
| 830 | 一六五九 | 万治二年 | 四月二三日 | 昼 | 岸勘兵 | 墨跡<br>(辞世)　旦　シセイ | | 尺八 | 備前　しりふくら | いか<br>たん　上　ひやう | | かうらい | | 茶杓　少庵作 | 9 | 335 |
| 831 | 一六五九 | 万治二年 | 五月二一日 | 朝 | 井九兵 | 墨跡　旦文 | | 竹一重　旦作 | かたつき　筑前やき | 備前 | | 黒 | | | 9 | 337 |
| 832 | 一六五九 | 万治二年 | 五月二五日 | 昼 | 江雪和尚 | 墨跡　利休辞世 | | 竹二重　御所持<br>写 | 火細　瀬戸、黒薬、古 | 備前 | | 古黒茶碗 | | | 9 | 337 |
| 833 | 一六五九 | 万治二年 | 七月二三日 | 昼 | 玄由 | 墨跡　三百(藐)<br>院様　文字 | | 備前 | 瀬戸、かたつき | 皆口 | | かうらい | | | 9 | 339 |
| 834 | 一六五九 | 万治二年 | 一〇月一日 | 昼 | 曽谷彦左 | 墨跡　唐筆　ゼ<br>カン<br>横物　細字 | | 青慈(磁)　耳有 | 瀬戸ノ黒薬かたつき | 備前 | | 高麗　ふきすミ | | 茶杓　少庵 | 9 | 342 |
| 835 | 一六五九 | 万治二年 | 一〇月六日 | 昼 | 宗仁 | 墨跡　徹翁 | | 備前 | 瀬戸 | 瀬戸 | | 赤 | | 茶杓　旦 | 9 | 342 |
| 836 | 一六五九 | 万治二年 | 一〇月七日 | 朝 | 大源庵 | 墨跡<br>法語　古岳、大燈 | | ひやうたん | 備前 | | | 絵瀬戸 | | 茶杓　旦作 | 9 | 343 |
| 837 | 一六六〇 | 万治三年 | 六月三日 | 朝 | 大源庵へ | 墨跡<br>色紙<br>表具　さり(佐理)<br>宗易 | | 竹　一重、旦作 | しりふくら、唐 | 備前　四方 | | 瀬戸、かうらい | | | 9 | 345 |
| 838 | 一六六一 | 寛文元年 | 三月二五日 | 昼 | 宗守 | 墨跡　少庵 | | 備前 | しからき　かたつき | | | 高麗 | | | 9 | 350 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 839 | 一六六一 | 寛文元年 | 閏八月一日 | | 西谷三郎左 | 墨跡 宗易文字瓦と在之候 | | 備前 織部 | | しからき | | 高麗 いらほ | | | 9 | 353 |
| 840 | 一六六一 | 寛文元年 | 閏八月五日 | 朝 | 二徳 | 墨跡 利 歌 | | 備前、懸 | 尾張やき | 手、粟田口 | | 瀬戸、ほり出し | | 茶杓 利 下地、慶首座 | 9 | 353 |
| 841 | 一六六一 | 寛文元年 | 閏八月一二日 | 朝 | 堺や弥四郎 | 墨跡 国師 奥書物 | | 花入ひやうたん | 茶入瀬戸肩衝黄なたれ在 | 備前 たいす 水指 | 瀬戸水こほし | 茶碗赤 | | | 9 | 354 |
| 842 | 一六六一 | 寛文元年 | 閏八月二八日 | 昼 | 針彦左 | 墨跡 一休横物 | | 青慈(磁) | かたつき | 備前 | | 高麗 | | | 9 | 354 |
| 843 | 一六六一 | 寛文元年 | 九月一七日 | 昼 | 清岩(厳) | 墨跡 リンサイノ賛 実伝 | | 掛 しからき | しからき 宗易 | 古備前、ゆひつ手 道安所持 | | はちひらい | | 茶杓 ぬり 易 | 9 | 355 |
| 844 | 一六六一 | 寛文元年 | 九月二七日 | 朝 | 元立 | 墨跡 沢庵文 | | | 備前 口セバ | いがやき | | みしま | | 茶杓 旦作 | 9 | 356 |
| 845 | 一六六一 | 寛文元年 | 一〇月一九日 | 昼 | 大源庵 | 墨跡 唐筆 永堅名印有 | | 一重竹 三十三年ノ由 | 瀬戸、丸壺、黄薬 | 四方、備前 | | 赤 のんかう | | | 9 | 358 |
| 846 | 一六六一 | 寛文元年 | 一〇月二〇日 | 昼 | 二徳 | 墨跡 利休歌 | | 壺 | しりふくら ひせんやき | | | はきやき | | 茶碗(杓カ) 三斎 | 9 | 359 |
| 847 | 一六六一 | 寛文元年 | 一〇月二六日 | 昼 | 長渕 | 墨跡 利文 横 | | 旦作 一重 上 | 瀬戸 おりべやき | 備前 | | 高麗 今 | | | 9 | 360 |
| 848 | 一六六一 | 寛文元年 | 一〇月三〇日 | 昼 | 道珠 | 墨跡 沢庵 歌 | 水仙、白玉 | 瀬戸、りうご、ひくちあり | 古瀬戸 しりふくら | 瀬戸、上 | 備前 口六角 | | | 茶杓 旦作 | 9 | 361 |
| 849 | 一六六一 | 寛文元年 | 一一月七日 | 昼 | 京極寺 | 墨跡 歌 龍山三ミやク院 | | 竹 二重筒 | 耳付 | 備前 | | かうらい | | | 9 | 361 |
| 850 | 一六六一 | 寛文元年 | 一二月二日 | 昼 | 和久了雲 | 墨跡 印月江、紙之内、杉原一枚もの程、印一つ | | 竹 わ 宗和 | 瀬戸、かたつき | 大耳 備前 | | コキ手 中 | | | 9 | 365 |
| 851 | 一六六二 | 寛文元年 | 一二月九日 | 昼 | 元由 | 絵賛 鈴木三郎 絵賛 玉舟 | | 備前 | しからき、大 | しからき | | 黒 古キ | | | 9 | 367 |
| 852 | 一六六二 | 寛文元年 | 一二月一〇日 | 昼 | 二徳 | 宗易横文 | | びせん | しりふくら 瀬戸、古 | しまもの | | かうらい しほけ | | | 9 | 367 |
| 853 | 一六六二 | 寛文元年 | 一二月二三日 | 朝 | 岸勘兵衛 | 墨跡 老父 | | ひやうたん | 小棗 休判有 一服入 | 備前 | | 瀬戸 | | | 9 | 368 |
| 854 | 一六六八 | 寛文八年 | 七月二日 | 朝 | 入江長兵衛 | 墨跡 定家切 | | 二重 三斎作 | あおいて 肩衝 | 備前水指 | | ゴキて茶碗 | | 茶杓 両樋 易 | 9 | 371 |
| 855 | 一六六八 | 寛文八年 | 七月二七日 | 朝 | 興善 | 利休文 | | かね | 丹波焼 しりふくら | 備前ゆひつ | | せと 絵 | | | 9 | 372 |
| 856 | 一六六八 | 寛文八年 | 一〇月八日 | 昼 | 中村八兵 | 大休墨跡 | | | 備前 | しからき | | 赤、上 | | | 9 | 373 |
| 857 | 一六六八 | 寛文八年 | 一〇月二五日 | 昼 | 為心 | | | ひやうたん | 瀬戸 古 | 備前、ひし水指 | | かうらい こもかへ | | | 9 | 375 |
| 858 | 一六六八 | 寛文八年 | 一〇月二七日 | 晩 | 宗古 | 玉舟墨跡 | | 備前 | いもの子 | 備前水指 | | 新茶碗 | | | 9 | 376 |
| 859 | 一六六八 | 寛文八年 | 一〇月二八日 | 朝 | 長渕 | 色紙 | | 備前、壺 | 備前 | | | 黒 | | | 9 | 376 |
| 860 | 一六六九 | 寛文九年 | 九月三日 | 昼 | 相半入 | 墨跡 玉室 捨 玉舟奥書 書 | | 竹一重 | 備前 | しからき、織部時分 | | 黒 中黒ト 銘在之 | | | 9 | 380 |
| 861 | 一六七九 | 延宝七年 | 一一月二日 | | 成身院 | 念大休墨跡 中立、次二床 巻 夜食後、古筆古キ 茶入等一覧 | | | 茶入 アゲ底 古キ茶入 | 伊部水指 | 瓶蓋ノ水コホシ | | | | 11 | 1-57 |
| 862 | 一六七九 | 延宝七年 | 一一月一四日 | | | 慈鎮懐懐帝法花寿 量品歌二首筆 名有之、表具常 修院宮御好、上 下浅黄トンス、 中丹地金襴、一文 字茶地金襴 | 白梅・紅梅・白 玉椿 | 宗和作 二重筒 白梅・紅梅・白玉 椿被活之、下重二 入 | 瀬戸肩槻ナマコ手ト云 物也浅黄地モフル二入 | 備前 | | 新渡三島 | | 御棚環ト羽被置之 御茶竹庵 御茶杓 常修院宮御作 | 11 | 1-57 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 863 | 一六七九 | 延宝七年 | 一一月一四日（右と同じか） | | 後西院 | 慈鎮懐紙 品ノ歌二首 寿量 表具常修院宮御 取合 上下アサキドンス 中タン地金襴 一文字茶地金襴 | 白玉椿 白梅 後ニ紅梅 一輪アリ | 宗和作二重筒（絵あり） | ナマコ手肩槻 浅黄地モフル袋ニ入緒 紫 | 古備前（絵あり） | | 新渡ノ三島手 | | 御香箱 楊茂 堆朱牡丹 御棚二羽 鐶 御茶杓 常修院宮御作 風呂前窓二柄杓御掛 畳目三ツ 柄ノトマリ竹輪 | 12 | 365 |
| 864 | 一六八〇 | 延宝八年 | 一二月二四日 | | 三菩提院 | 福園院老僧故断 出山了、即之大文 字横物 | 柳長春 | 古備前花入 | 漢内海茶入 | 片樂水指 | | イラボ大茶碗 | | 瑠球青貝布袋香合 羽荘 茶杓 常修院宮御作 | 11 | 3-25 |
| 865 | 一六八一 | 天和元年 | 七月三日 | | 新院 | 一山墨跡一行物、 廻脱招塵四字也、 上下カキ地、浅黄 色梅竹鶴之紋アリ、トンスナリ、中 一文字八沙歟 | | 宗和作 二重筒 | ナマ子手御信太肩槻 ト號金モウル袋ニ入 | 古備前手桶 | | 従稲葉美濃守献上 之新渡也、口ニ紋ア リ | | 御棚二仁和寺焼にしき手揚子サシ ノ香箱、環被荘之 | 11 | 4-32 |
| 866 | 一六八一 | 天和元年 | 七月三日（右と同じか） | | 後西院 | 一山墨跡 廻祝招 苑 書 印 御表具 上下カ キ地 浅黄シケ松 梅鶴 中 一文字 | 白きく二輪 黄きく一輪 | 宗和作二重筒（絵あり） | 信太肩槻十二子手 金モウル袋二入 | 古備前手桶 | | 新渡 口ニ紋アリ 濃州献上 | | 御棚 仁和寺物 楊子サシ御香 合 鐶被荘之 御茶杓 宗和 | 12 | 369 |
| 867 | 一六八二 | 天和二年 | 一二月五日 | | 後西院 | 後花園御懐紙 栄華ノ書入アリ 上下トンス 中白地金ラン 一文字風帯 紫 地金ラン | 水仙 | 焼物竹ノ花入 | ねチヌキ御茶入 毛 留袋 | 古備前水指 | | 五器茶碗 | | 御棚二四方ノ香合瀬戸歟 羽 | 12 | 374 |
| 868 | 一六八四 | 貞享元年 | 六月六日 | | 新院 | 爲家之詠草之切 | 白蓮二輪 | サレ木 | 正信手 春慶 毛留 袋也 | | | 新渡御茶碗 | | 御香箱 古備前扇新、御棚環・羽被 荘之 | 11 | 12-21 |
| 869 | 一六八四 | 貞享元年 | 六月六日（右と同じか） | | 後西院 | 為家詠草之切 | 白蓮二輪 | サン木御花入 | 御茶入正信手春慶 毛留袋 | | | 新渡御茶碗 | | 御棚 扇形古備前香合 鐶羽置 合也 | 12 | 376 |
| 870 | 一六八五 | 貞享二年 | 一月二一日 | | 院 | 後小松勅筆歌 | 南京梅・椿 | 常修院宮御作尺八 | 弥ちぬき毛留袋 | 古備前 | | 新渡 | | 御棚 御茶杓 青貝つる付御香合 宗和作 釵さきの貝な り | 11 | 14-28 |
| 871 | 一六八五 | 貞享二年 | 一月二一日 | | 後西院 | 後小松勅筆 | 南京梅 椿 | 常修院宮御作尺八 | ねちぬき茶入 毛留 袋 | 古備前水指 | | 新渡御茶碗 | | 御棚 青貝釣付香合 宗和作御茶杓 釵サキノヒ成也 羽 | 12 | 376 |
| 872 | 一六八五 | 貞享二年 | 一月二四日 | | 常修院 | 後水尾院勅筆御製 御散書也、題尺教 也、御判アリ | 蝋梅 | 細口唐金花入 | 古備前御茶入 | 粟田口焼耳口 アリ | ためぬりノこぼし | 本能寺渡歟 高麗也 | | 御棚環・羽 香合八唐獅焼物 宗和作ぬり茶杓まき絵ニ梧ノ紋 アリ | 11 | 15-20 |
| 873 | 一六八五 | 貞享二年 | 二月二八日 | | 三菩提院 | 妙門主絵達磨ニ 勅讃之掛物 | 梅・椿 | 前ニ拝借焼物置 花入 | 八重桜ノ茶入 | 手洗柳手ノ水 指 | | 高麗朝かほ手茶碗 | | 宗和作茶杓 古備前扇之香合 | 11 | 15-21 |
| 874 | 一六八五 | 貞享二年 | 一一月一一日 | | 品宮 | 可翁筆 川鳥之絵、 表具小堀遠江ノ由 御物語也 | | | 口廣根抜御茶入、白地 ヨリ金廣東袋 | 備前水さし | | 高麗茶碗 | | 南京香合 利休作芋茶杓 | 11 | 20-25 |
| 875 | 一六八六 | 貞享三年 | 六月一七日 | | 出納豊後守 | 月庵墨跡 宗和 表具也 | | 古備前釣舟活花 | 宗和好ノ長茶入 御室 焼 | | | | | 三足卓爾雉香炉 青貝香合 宗和作之茶杓 | 11 | 21-40 |
| 876 | 一六八六 | 貞享三年 | 一一月二〇日 | | 三菩提院 | 大塔宮消息 | 水仙 | 青地きぬた花入 | 小肩槻茶入道元切之 袋 四方盆縁朱ぬり | 古備前水指 | | 本能寺渡茶碗 | | 月日貝棚二手瓢□ 常修院宮御作茶杓 | 11 | 21-44 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 877 | 一六九三 | 元禄六年 | 一一月二九日 | 晩 | 伊達綱村 | 輝東陽之墨跡 | 椿赤　寒菊 | あら(荒)磯重ノ物 | 堪忍 | 古備前五角 | 面桶 | 熊川 | | ツリ棚ニ　香合<br>読)　脇ニ三羽ツル　染付ヒヨミ(日<br>炭斗フクヘ<br>茶杓　上林初音<br>ふた置　三斎大フリ<br>青竹 | 13 | 35 |
| 878 | 一六九八 | 元禄一一年 | 一月九日 | 晩 | 伊達綱村 | 大猷院殿柴舟之御書 | 柳　白椿 | 瓢簞一重 | 袋棚　上<br>慶丸壺押詰　茶入<br>左衛門上ル　舟橋長春<br>盆曲柴入内朱塗押<br>詰買候 | 御本手三嶋耳付<br>七日ニ買<br>上ニ柄杓置候 | 備前筒形 | 瀬戸　なまこ時代 | | 人押詰買候　上　香炉<br>絵是も押詰買候　脇ニ小キ香合　青磁一閑<br>下　炭斗　小振細籠　赤<br>茶杓　利休作　佐々豊前上ル<br>蓋置　青竹<br>茶　賴政初むかし | 13 | 55 |
| 879 | 一六九八 | 元禄一一年 | 二月晦日 | 暁 | 伊達綱村 | 清拙墨跡拝領 | 椿 | 碪 | 物相　盆　内赤 | 古備前五角 | 面桶 | 千鳥持出ル | | 炭斗　ふくへ<br>香合　青貝東坡<br>茶杓　三斎作　貞山様御代より<br>御座候<br>蓋置　青竹<br>茶　三入初むかし | 13 | 56 |
| 880 | 一六九八 | 元禄一一年 | 九月三日 | 昼 | 伊達綱村 | 馮海栗(粟)墨跡 | しうかいとう | 胡銅経筒　左近<br>殿所持 | 武隈 | 古備前五角 | 染付ひつみ | 村雲 | | 二重棚　上<br>(兎)石州所持　香炉　青磁うさき<br>下　香合　赤絵柴入　三羽鶴<br>炭斗　四角細籠<br>水次　かねの物<br>蓋置　瀬戸織部時代<br>茶杓　三斎作　本多采女上ル<br>茶　牛加後むかし | 13 | 61 |
| 881 | 一六九九 | 元禄一二年 | 四月一九日 | 朝 | 伊達綱村 | 輝東陽墨跡 | 芍薬 | をとしかけニ淡路<br>屋釣船 | 面取　今度茂庭（性<br>元）周防上ル | 古備前五角 | 沙波利口寄 | 猿耳 | | 炭斗　四角細籠<br>香合　染付柿<br>茶杓　宗久作<br>蓋置　鎮信老より給候<br>上林初むかし | 13 | 66 |
| 882 | 一六九九 | 元禄一二年 | 四月二六日 | 夜 | 伊達綱村 | 柳五位鷺讃<br>庵琦楚石画黙 | かうほね | 荒磯 | 面取　今度茂庭周防<br>上 | 古備前五角 | 沙波利鉢子形 | 判事五器 | | 炭斗　唐物四角細籠<br>香合　赤絵小振<br>水次　青磁<br>蓋置　石州根竹<br>茶杓　利休作　鎮信老より給候<br>茶蓋置　石州根竹<br>三入初むかし | 13 | 66 |
| 883 | 一六九九 | 元禄一二年 | 四月二七日 | 朝 | 伊達綱村 | 虚堂墨跡 | かうほね | 代長 | 小肩衝<br>水指之前に置<br>盆　菊之折枝 | 古備前五角 | 沙波利口寄 | 三輪ヶ崎<br>持出ル | | 軸脇ニ香炉　利休四方香炉之手<br>炭斗　梨地四角<br>香合　赤絵小振<br>水次　染付筋つる付<br>蓋置　高原焼<br>茶杓　三斎作　貞山御代より御<br>座候<br>茶　三入初むかし | 13 | 67 |
| 884 | 一六九九 | 元禄一二年 | 五月一八日 | 朝 | 伊達綱村 | 清拙墨跡　先達<br>買候 | 小ゆり | 青磁細口象耳 | なまこ手 | 古備前餌籮<br>利休所持此<br>度今井七九郎<br>殿より参候 | 沙波利縁有<br>カスカイ | 三輪ヶ崎 | | 炭斗　四角細籠<br>香合　染付丁子<br>茶杓　織部作五嶋五郎左衛門上<br>ル<br>蓋置　高原焼立鼓<br>茶　森本後むかし | 13 | 68 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 885 | 一六九九 | 元禄一二年 | 六月一〇日 | 晩 | 伊達綱村 | 清拙墨跡<br>買候<br>先達 | かうほね | 古備前立鼓<br>部遠州所持<br>織 | 苫屋 | 御本手端彎 | 沙波利鉢子形 | 藤田<br>候<br>参勤以後買 | | 軸脇二香炉<br>炭斗<br>利休破笠<br>香合<br>唐物四角細籠<br>水次<br>青磁絃付<br>茶杓<br>宗久作<br>蓋置<br>遠州所持<br>瀬戸織部時代<br>茶<br>牛加初昔夏切試遣候を幸ニ<br>披候 | 13 | 69 |
| 886 | 一六九九 | 元禄一二年 | 六月一七日 | 晩 | 伊達綱村 | 大明金本清筆大<br>字田辺喜右衛<br>門上ル<br>建仁天隠和尚詩<br>並序 | かうほね | 胡銅四角安達雲<br>斎上ル | 村雨<br>ル<br>山本勘兵衛上 | 伊賀焼<br>餌籮 | 新備前四角 | 古高麗しみ | | 軸脇二香炉<br>炭斗<br>利休四方香炉之手<br>香合<br>唐物小細籠<br>水次<br>堆朱福禄寿<br>茶杓<br>黒塗片口<br>三斎作<br>蓋置<br>本多采女上<br>瀬戸織部時代<br>茶<br>三入ノ白 | 13 | 69 |
| 887 | 一六九九 | 元禄一二年 | 六月二九日 | 朝 | 伊達綱村 | 虚堂墨跡 | かうほね | 南蛮巾着<br>雲州所持<br>金森 | 小肩衝<br>枝<br>盆<br>水指之前二置<br>菊之折 | 古備前餌籮<br>利休所持<br>今<br>井七九郎殿よ<br>り参候 | 沙波利鉢之子<br>形 | 破高台之手<br>持出 | | 軸脇二香炉<br>炭斗<br>利休四方香炉之手<br>香合<br>唐物小細籠<br>茶杓<br>堆朱福禄寿<br>御座候<br>三斎作<br>蓋置<br>貞山様御代より<br>茶<br>尾崎初むかし | 13 | 71 |
| 888 | 一六九九 | 元禄一二年 | 閏九月九日 | 朝 | 伊達綱村 | 布袋画<br>讃<br>癡<br>卒翁 | さゝん花 | 荒磯 | 貯月<br>遠州所持 | 古備前五角 | 沙波利棒之先 | 竪手 | | 軸脇二香炉<br>茶杓<br>利休四方香炉之手<br>利休作<br>上ル<br>小振<br>柴田庄次郎<br>蓋置<br>石州根竹<br>上林根竹<br>茶<br>白むかし | 13 | 74 |
| 889 | 一六九九 | 元禄一二年 | 一〇月二一日 | | 伊達綱村 | 虚堂墨跡 | 梅<br>寒菊 | 花筒<br>此度買候<br>織部殿作 | 古瀬戸肩衝<br>殿所持<br>桑山左近<br>上ル<br>此度吉田平助<br>水指之前二置<br>盆<br>若狭手四方盆 | 備前餌籮<br>休所持<br>利 | 面桶 | 古唐津<br>此度勝田寿閑上<br>持ル<br>遠州所持<br>出 | | 三香合<br>炭斗<br>染付瓢箪<br>蓋置<br>道安作<br>茶杓<br>青竹<br>茶<br>石州所持<br>上林初むかし<br>但壺小天狗<br>小座敷江飾候 | 13 | 89 |
| 890 | 一六九九 | 元禄一二年 | 一一月九日 | 晩 | 伊達綱村 | (廿一日晩同前)<br>虚堂墨跡 | 寒菊 | (廿一日晩同前)<br>花筒<br>此度買候<br>織部殿作 | (廿一日晩同前)<br>古瀬戸肩衝<br>近殿所持<br>桑山左<br>平助上ル<br>此度吉田<br>水指之前二置<br>盆<br>若狭手四方盆 | (廿一日晩同前)<br>備前餌籮<br>利休所持 | (廿一日晩同前)<br>面桶 | (廿一日晩同前)<br>古唐津<br>此度勝田寿閑上<br>遠州所持<br>持ル<br>出 | | (香合・茶外 廿一日晩同前)<br>炭斗<br>ふくへ<br>如例大文字屋怡<br>斎上ル<br>火箸<br>宗薫所持<br>此度今井七九<br>郎殿より参<br>灰ほうろく<br>はんた<br>宗久所持<br>此度今井七九郎殿より参<br>三羽鶴<br>香合<br>染付三角鶴之文<br>茶杓<br>道安作<br>石州所持<br>蓋置<br>青竹<br>茶<br>上林後むかし | 13 | 90 |
| 891 | 一六九九 | 元禄一二年 | 一一月一四日 | 晩 | 伊達綱村 | (廿一日晩同前)<br>虚堂墨跡 | 梅<br>椿 | (廿一日晩同前)<br>花筒<br>此度買候<br>織部殿作 | (廿一日晩同前)<br>古瀬戸肩衝<br>近殿所持<br>桑山左<br>平助上ル<br>此度吉田<br>水指之前二置<br>盆<br>若狭手四方盆 | (廿一日晩同前)<br>備前餌籮<br>休所持<br>利 | (廿一日晩同前)<br>面桶 | (廿一日晩同前)<br>古唐津<br>此度勝田寿閑上<br>遠州所持<br>持ル<br>出 | | (茶外 廿一日晩同前)<br>炭斗<br>ふくへ<br>如例大文字屋怡<br>斎上ル<br>火箸<br>宗薫所持<br>此度今井七九<br>郎殿より参<br>灰ほうろく<br>はんた<br>宗久所持<br>此度今井七九郎殿より参<br>三羽鶴<br>香合<br>染付瓢箪<br>茶杓<br>道安作<br>石州所持<br>蓋置<br>青竹<br>茶<br>上林後むかし | 13 | 90 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 892 | 一六九九 | 元禄一二年 | 一一月一九日 | 晩 | 伊達綱村 | (廿一日晩同前)<br>虚堂墨跡 | 水仙 | (廿一日晩同前)<br>花筒 織部殿作<br>此度買候 | (廿一日晩同前)<br>古瀬戸肩衝 桑山左近殿所持 此度吉田平助上ル<br>水指之前二置<br>盆 若狭手四方盆 | (廿一日晩同前)<br>備前餌籮 利休所持 | (廿一日晩同前)<br>面桶 | (廿一日晩同前)<br>古唐津 遠州所持 此度勝田寿閑上ル<br>持出 | | (茶外 廿一日晩同前)<br>炭斗 ふくへ 如例大文字屋怡<br>斎上ル<br>火箸 宗薫所持 此度今井七九郎殿より参<br>灰ほうろく はんた 宗久所持<br>三羽鶴 此度今井七九郎殿より参<br>香合 染付瓢箪<br>茶杓 道安作 石州所持<br>蓋置 青竹<br>茶 上林後むかし | 13 | 90 |
| 893 | 一六九九 | 元禄一二年 | 一一月二五日 | 晩 | 伊達綱村 | 大猷院殿柴舟之御書 | 梅<br>椿<br>寒菊 | 碪<br>織部所持 | 小肩衝 盆<br>枝<br>水指之前二置<br>菊之折 | (廿一日晩同前)<br>備前餌籮 利休所持 | (廿一日晩同前)<br>面桶 | 堅手<br>持出ル | | (茶杓・茶外 廿一日晩同前)<br>炭斗 ふくへ 如例大文字屋怡<br>斎上ル<br>火箸 宗薫所持 此度今井七九郎殿より参<br>灰ほうろく はんた 宗久所持<br>三羽鶴 此度今井七九郎殿より参<br>香合 染付瓢箪<br>茶杓 三斎作 貞山様御代より<br>御座候<br>蓋置 青竹<br>茶 三入初むかし | 13 | 90 |
| 894 | 一六九九 | 元禄一二年 | 一一月二六日 | 晩 | 伊達綱村 | (廿一日晩同前)<br>虚堂墨跡 | 梅<br>椿 | (廿一日晩同前)<br>花筒 織部殿作<br>此度買候 | (廿一日晩同前)<br>古瀬戸肩衝 桑山左近殿所持 此度吉田平助上ル<br>水指之前二置<br>盆 若狭手四方盆 | (廿一日晩同前)<br>備前餌籮 利休所持 | (廿一日晩同前)<br>面桶 | (廿一日晩同前)<br>古唐津 遠州所持 此度勝田寿閑上ル<br>持出 | | (茶外 廿一日晩同前)<br>炭斗 ふくへ 如例大文字屋怡<br>斎上ル<br>火箸 宗薫所持 此度今井七九郎殿より参<br>灰ほうろく はんた 宗久所持<br>三羽鶴 此度今井七九郎殿より参<br>香合 染付瓢箪<br>茶杓 道安作 石州所持<br>蓋置 青竹<br>茶 上林後むかし | 13 | 91 |
| 895 | 一六九九 | 元禄一二年 | 一一月晦日 | 朝 | 伊達綱村 | (廿一日晩同前)<br>虚堂墨跡 | 梅<br>椿 | (廿一日晩同前)<br>花筒 織部殿作<br>此度買候 | (廿一日晩同前)<br>古瀬戸肩衝 桑山左近殿所持 此度吉田平助上ル<br>水指之前二置<br>盆 若狭手四方盆 | (廿一日晩同前)<br>備前餌籮 利休所持 | (廿一日晩同前)<br>面桶 | (廿一日晩同前)<br>古唐津 遠州所持 此度勝田寿閑上ル<br>持出 | | (茶外 廿一日晩同前)<br>炭斗 ふくへ 如例大文字屋怡<br>斎上ル<br>火箸 宗薫所持 此度今井七九郎殿より参<br>灰ほうろく はんた 宗久所持<br>三羽鶴 此度今井七九郎殿より参<br>香合 染付瓢箪<br>茶杓 道安作 石州所持<br>蓋置 青竹<br>茶 上林好ノ白 | 13 | 91 |
| 896 | 一六九九 | 元禄一二年 | 一二月三日 | 晩 | 伊達綱村 | 後水尾院御懐紙<br>領逢春門院拝<br>遺水本僧正江<br>具候を給候<br>仕被候<br>被候表 | 梅<br>椿 | 胡銅<br>異風<br>玉縁<br>多数 | 峯月 | 新備前端彎 | 面桶 | 猿耳 | | 御曹司(伊達吉村)より参候口切<br>之茶<br>炭斗 上林初昔披<br>香合 ふくへ<br>三羽大鳥 高麗宝珠継入<br>茶杓 利休作<br>蓋置 青竹 | 13 | 91 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 897 | 一七〇〇 | 元禄一三年 | 一一月九日 | 晩 | 伊達綱村 | 馮海栗(粟)墨跡 | 梅　寒菊 | 青磁中かふら | 真如堂手　藤重 | 古備前五角 | さはり鉢子形 | 古高麗しみ<br>持出ル | | 棚上　炭斗　細籠　長沼善五郎<br>上　環<br>下　三羽鶴<br>香合　染付四角菊之紋　此度御<br>曹司より参候<br>水次　木地片口<br>柄杓　窓敷居二掛テ<br>茶杓　利休作　石州所持 | 13 | 104 |
| 898 | 一七〇〇 | 元禄一三年 | 一一月一九日 | 晩 | 伊達綱村 | 柳五位鷺讃<br>琦楚石画黙<br>庵 | 梅　寒菊 | 碪　織部殿所持 | 小肩衝　盆　菊之折<br>枝<br>水指之前に置 | 古備前五角 | 面桶 | 屏躰<br>持出 | | 香合　堆朱福禄寿<br>三羽鶴<br>炭斗　ふくへ<br>水次　木地片口<br>茶杓　三斎之作　真山様御代よ<br>り御座候<br>蓋置　青竹<br>茶　上林後むかし | 13 | 105 |
| 899 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 二月一八日 | 晩 | 伊達綱村 | 定家懐紙 | 薄　紅梅 | 瀬戸異風 | 面取　茂庭周防上ル<br>水指之前ニ置 | 古備前五角 | 面桶 | 猿耳<br>持出ル | | 二重棚　上　香炉　利休四方香<br>炉之手<br>下　香合　鎌倉物三輪之彫　神<br>尾紹元老所持<br>三羽鶴大鳥<br>炭斗　ふくへ<br>水次　木地片口<br>茶杓　織部殿作　中川立甫より<br>参候<br>蓋置　青竹<br>茶　三入後むかし | 13 | 107 |
| 900 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 二月二五日 | 晩 | 伊達綱村 | 春浦墨跡 | 梅　椿 | 瀬戸異風 | 樽躰 | 古備前五角 | 面桶 | 嵐甞 | | 棚上　香炉　鉄鮹足<br>下　香合　三輪山<br>三羽鶴<br>炭斗　ふくへ<br>水次　木地片口<br>茶杓　利休作　小振　柴田庄次<br>郎上ル<br>蓋置　青竹<br>茶　三入後むかし | 13 | 108 |
| 901 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 四月二五日 | 晩 | 伊達綱村 | 虚堂墨跡 | 柴蘭 | 碪 | 物相　盆　内赤 | 古備前五角 | 面桶 | 屏躰 | | 床　香炉　堅手獅子口<br>炭斗　細籠<br>香合　赤絵切子<br>水次　染付筋　小振<br>茶杓　利休作<br>蓋置　石州根竹<br>茶　三入初むかし | 13 | 110 |
| 902 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 五月一八日 | 朝 | 伊達綱村 | 馮海栗(粟)墨跡 | 牡(杜)若 | 古備前立鼓<br>部遠州所持<br>織 | ねくたれ髪 | 南蛮飯櫃抱桶<br>之蓋取合 | 面桶 | 利休精進茶碗 | | 床　堅手獅子口<br>香合　木地挽物弦付<br>炭斗　香炉<br>水次　染付雲鶴　御買物<br>香合　青磁<br>茶杓　利休作　石州所持<br>蓋置　石州根竹<br>茶　星野一ノ白 | 13 | 113・135 |
| 903 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 六月一〇日 | 晩 | 伊達綱村 | 一休小色紙　京極<br>安智老所持　対<br>馬守殿より参候 | かうほね | 籠餌籮 | 鏡山 | 染付丸紋筋 | 備前　今度賞候 | 今井茶碗 | | 床　香炉　青磁亀<br>香合　聚楽四角紅葉之紋<br>水次　かねの物<br>茶杓　利休作　小振　佐々豊前<br>上ル<br>蓋置　青竹 | 13 | 115 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 904 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 八月七日 | 晩 | 伊達綱村 | 兀庵一行物 | かうほね | 古備前立鼓<br>部遠州所持<br>織 | 白玉文琳<br>水指之前ニ置<br>黒塗四方<br>盆 | 藤四郎黄なた<br>れ | 沙波利 | 吉野<br>持出ル | | 床斗<br>香炉<br>細籠<br>堅手獅子口<br>香合<br>水次<br>青貝芦鷺<br>茶杓<br>染付筋弦付<br>三斎之作<br>蓋置<br>石州根竹<br>牛<br>加後むかし | 13 | 120・145 |
| 905 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 八月一五日 | 晩 | 伊達綱村 | 一休小色紙<br>安智老所持　京極<br>馬守殿より参候　対 | | 備前耳付 | | 藤四郎黄なた<br>れ | 沙波利 | 小烏 | | 炭斗<br>香合<br>青貝六角<br>水次<br>染付四角牛之紋<br>茶杓<br>黒塗片口<br>御座候<br>三斎作<br>蓋置<br>貞山様御代より<br>かねの物<br>茶<br>牛<br>加一ノ白 | 13 | 121・147 |
| 906 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 八月一八日 | 晩 | 伊達綱村 | 大林一行物 | かうほね | 青磁管耳 | 雄嶋 | 備前尻張 | 沙波利 | 古唐津<br>遠州所持 | | 炭斗<br>香合<br>細籠<br>三羽大鳥<br>堆朱松人形<br>水次<br>周明造<br>茶杓<br>染付筋<br>蓋置<br>道安作<br>石州所持<br>茶<br>石州根竹<br>牛<br>加一ノ白 | 13 | 121 |
| 907 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 九月二日 | 晩 | 伊達綱村 | 無学墨跡 | 千日草 | 唐物籠 | 備前耳付 | 伊賀焼餌籮 | 沙波利鉢子形 | 屋躰 | | 炭斗<br>香合<br>梨地四角<br>水次<br>高麗宝珠<br>茶杓<br>青磁弦付<br>蓋置<br>三斎作小振<br>瀬戸きりく<br>先年買候 | 13 | 122・149 |
| 908 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 一〇月八日 | 晩 | 伊達綱村 | 布袋　尚信筆 | 椿<br>閑悦入 | 新備前筒形轆轤目 | 茶臼屋 | | | 石畳 | | | 13 | 169 |
| 909 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 一〇月一〇日 | 晩 | 伊達綱村 | 布袋　尚信(筆) | 椿<br>閑悦入 | 新備前筒形縁有轆轤目 | 揚底芋子 | | | 判事五器 | | | 13 | 169 |
| 910 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 一一月二六日 | 晩 | 伊達綱村 | 堯孝文<br>小座敷掛物<br>舟山水流書<br>雪 | 白梅寒菊 | 古備前立鼓 | 樽躰<br>ル時代<br>薄茶入<br>袋<br>萌黄笹ツ<br>鵜飼舟 | さつま筒 | | 面桶 | 今井茶碗<br>二色水さしの前ニ<br>置合 | 炭置候<br>香合<br>染付山水小フリ<br>三羽大鳥かけて置<br>炭取<br>ふくへ<br>茶杓<br>三入花ノ白<br>ふた置<br>利休作<br>ひしゃく<br>小振<br>青竹<br>柴田 | | |
| 911 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 一二月三日 | 晩 | 伊達綱村 | 春浦墨跡 | 水仙 | 胡銅異風輪耳 | 霜夜<br>袋<br>織留かんと<br>水指之前に置<br>う | 古備前五角 | | 面桶 | 小蛛 | 炭斗<br>香合<br>ふくへ<br>三羽鶴<br>青貝瓢簞<br>茶杓<br>織部(作)中川<br>蓋置<br>鳴滝<br>花ノ白<br>青竹 | 13 | 214 |
| 912 | 一七〇一 | 元禄一四年 | 一二月五日 | 朝 | 伊達綱村 | 蕪煙<br>画自讃<br>水和尚自 | 水仙<br>茶道入 | 新備前耳付糸目 | 春慶文琳 | | | | 下露 | | 13 | 180 |
| 913 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 三月一二日 | 晩 | 伊達綱村 | 小座敷掛物<br>閻<br>探幽筆<br>満 | 白桃白椿 | 備前経筒 | 橋姫手丸肩衝<br>薄茶入<br>網代棗 | 抱桶環付 | | 面桶 | 新渡飯櫃 | 炭置候<br>香炉<br>梨地柴入籠蓋<br>炭取細籠<br>三羽大鳥入て<br>香合<br>染付雲鶴<br>茶杓<br>三入白むかし詰<br>蓋置<br>石州作田村織部上ル<br>石州根竹 | 13 | 194・219 |
| 914 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 五月八日 | 夜 | 伊達綱村 | 枯木鷺之絵<br>雲筆<br>洞 | かうほね<br>道入<br>茶 | 古備前細口 | 盤若 | | | | 呉洲染付 | | 13 | 199 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 915 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 六月一一日 | 朝 | 伊達綱村 | 堯孝之文 | せきちく | 胡銅花瓶口 | 鏡山<br>鏡山丸壺<br>金襴袋<br>薄茶入　嶋物るふこ　餌地古 | 抱桶尻張 | 染付へこみ | 井戸はけめ<br>井戸刷毛目 | | 炭置候<br>香炉　薩摩獅子蓋<br>香合　染付牡丹之紋平メ<br>三羽鶴<br>炭斗　細籠　宗薫所持<br>水次　かねの物<br>茶杓　星野初むかし<br>蓋置　利休　安房進上<br>青竹 | 13 | 227・285 |
| 916 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 六月一七日 | 夜 | 伊達綱村 | 細川藤孝懐紙 | | 備前経筒 | 唐津平肩衝 | | | 熊川　小フリ | | | 13 | 229 |
| 917 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 七月一五日 | 朝 | 伊達綱村 | | | 古備前細口 | 網代芋子 | | | 金海七角 | | | 13 | 238 |
| 918 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 七月一五日 | 晩 | 道白 | 定家卿　歌の切 | | 同前(古備前細口) | 薄紅葉 | | | 熊川火替 | | | 13 | 238 |
| 919 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 七月一六日 | 朝 | 伊達綱村 | | | 同前(古備前細口) | 金花山面取 | | | 熊川 | | | 13 | 238 |
| 920 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 七月二二日 | 朝 | 伊達綱村 | 朝陽画讃<br>牧渓筆　画<br>讃東叟元愷和<br>尚 | はちす | 備前異風　今度<br>御曹司より給候 | 鳴海肩衝　袋　後大<br>石畳<br>書院に而薄茶入　銅<br>高手飯銅 | 新信楽耳付 | 沙波利鉢子形 | 堅手三角 | | 香炉<br>香合　瀬戸四角友蓋<br>三羽大鳥　朱塗梅鉢<br>炭斗　細籠　宗薫所持<br>水次　かねの物<br>茶杓　星野後むかし<br>蓋置　宗及作<br>青竹 | 13 | 240・288 |
| 921 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 七月二五日 | 晩 | 伊達綱村 | 朝陽画讃<br>牧渓筆　画<br>讃東叟元愷和<br>尚横三畳台目掛物<br>庵頓阿法師続草<br>集巻頭之切 | 菊 | 備前異風 | 紀海袋<br>薄茶入　小花輪違<br>茄子　古瀬戸時代 | 薩摩耳付 | 沙波利鉢子形 | 古高麗 | | 炭置候<br>香炉　利休四方香炉之手<br>環<br>三羽鶴<br>炭斗　細籠　宗薫所持<br>水次　香合　呉洲染付<br>茶杓　かねの物<br>蓋置　向井初むかし<br>青竹　利休作　石州所持 | 13 | 241・288 |
| 922 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 八月一三日 | 朝 | 伊達綱村 | 同前(碧雲自画自讃) | | 備前異風 | 揚底芋子 | | | 熊川 | | | 13 | 245 |
| 923 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 八月一三日 | 夜 | 道竿 | 同前(碧雲自画自讃) | | (同前)備前異風 | 古唐津立鼓 | | | 五器 | | | 13 | 245 |
| 924 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 八月一四日 | 晩 | 伊達綱村 | 朝陽画讃<br>牧渓筆　画<br>讃東叟元愷和<br>尚横三畳台目掛物<br>法客来横物古<br>眼筆 | 杜若 | 備前異風<br>司より給候　御曹 | 鳴海肩衝　袋　後石畳<br>薄茶入　藤四郎耳付 | 古信楽 | 面桶 | 堅手三角 | | 炭置候<br>香炉　瀬戸四角友蓋<br>香合　青磁向獅子<br>三羽大鳥<br>炭斗　細籠　宗薫所持<br>水次　かねの物<br>茶杓　星野初むかし<br>蓋置　利休作　石州所持<br>高原焼立鼓 | 13 | 246・289 |
| 925 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 八月二三日 | 晩 | 伊達綱村 | 大明金本清筆大<br>字建仁大隠和尚<br>詩並序 | | 備前経筒 | 朝鮮瓢簞 | | | 雨もり | | | 13 | 247 |
| 926 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 九月二六日 | 朝 | 伊達綱村 | | | 新備前異風 | 渋紙手肩衝 | | | 松葉 | | | 13 | 257 |
| 927 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 九月二七日 | 朝 | 伊達綱村 | | | (同前)新備前異風 | 関守 | | | 高麗端譽 | | | 13 | 257 |
| 928 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 九月二七日 | 夜 | 伊達綱村 | | | (同前)新備前異風 | 盤若 | | | 古唐津 | | | 13 | 258 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 929 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 九月晦日 | 朝 | 伊達綱村 | | | 新備前異風 | 金花山面取肩衝 | | | 瀬戸織部時代 | | | 13 | 258 |
| 930 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 九月晦日 | 晩 | 伊達綱村 | | | 備前経筒 | 橋姫手丸肩衝 | | | 井戸脇大茶碗 | | | 13 | 258 |
| 931 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 九月晦日 | 夜 | 伊達綱村 | | | (同前)備前経筒 | 小手巻 | | | 新渡 | | | 13 | 258 |
| 932 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 一〇月一日 | 朝 | 伊達綱村 | | | (同前)備前経筒 | 関守 | | | 絵唐津 | | | 13 | 258 |
| 933 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 一〇月三日 | 朝 | 伊達綱村 | | | (同前)備前経筒 | 金花山面取肩衝 | | | 金海七角 | | | 13 | 259 |
| 934 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 一〇月一一日 | 朝 | 伊達綱村 | 堯孝之文 | 小菊 | 新備前異風 松平新太郎殿より | 玉川手 雄嶋 二重つる白地古金襴 小座敷に而薄茶入 瀬戸大海 袋 | 薩摩耳付 | 面桶 | 八重雪 | | 炭置候 香合 染付山水 小振 三羽野鴈 細籠 宗薫所持 水次 炭取 塗片口 河村初むかし 茶杓 石州作 遠山帯刀上ル 瀬戸きりく | 13 | 260・294 |
| 935 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 一〇月二四日 | 夜 | 伊達綱村 | 竹雀 雪舟筆 | | 古備前細口 | 網代芋子 | | | 高麗継入 | | | 13 | 262 |
| 936 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 一〇月二五日 | 朝 | 伊達綱村 | (同前)竹雀 雪舟筆 | | (同前)古備前細口 | みとり | | | 新渡 | | 炭置候 | 13 | 262 |
| 937 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 一一月二五日 | 晩 | 伊達綱村 | 利休之文 | 白梅 赤椿 | 一尾伊織殿作 | 新兵衛焼 小振 浅黄地かんとう錦 袋 | 新備前端彎 | 面桶 | 堅手 | | 炭取 香合 ふくへ 三羽鶴 朱塗柚 茶杓 橋元若森ノ白 石州作 遠山帯刀上ル 蓋置 青貝草花 香合 三羽鶴 炭取 ふくへ 牛 加初むかし 茶杓 桑山左近殿作 蓋置 青貝草花 | 13 | 298 |
| 938 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 一二月九日 | 晩 | 伊達綱村 | 一休墨跡 | 白梅 寒菊 | 二重 三斎作 | 白玉文琳 袋 本能寺切 盆 若狭盆 | 古備前鮹壺 | 面桶 | 小烏 持出 | | 炭置候 香合 青貝草花 三羽大鳥 炭斗 細籠 茶杓 上林初むかし 蓋置 織部作 中嶋伊勢上 青竹 | 13 | 300 |
| 939 | 一七〇二 | 元禄一五年 | 一二月一四日 | 晩 | 伊達綱村 | 馮海粟墨跡 小座敷掛物 流書夏圭山水 雪舟筆 | 白梅 | 花筒 三斎作拉 | 備前勢高田切相良かんとう継分 袋 和久 薄茶入 口はけ | 新信楽山道 | 面桶 | 堅手三角 | | 炭置候 香合 鎌倉彫 三羽大鳥 炭斗 瓢 茶杓 三入初むかし 上ル 織部作 五嶋五郎左衛門 蓋置 青竹 | 13 | 269・300 |
| 940 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 一月二七日 | 晩 | 伊達綱村 | 面壁之像 心源禅師自画自讃 | 紅梅 赤椿 | 備前経筒 | 八十九 袋 織留かんとう 小座敷薄茶入 古瀬戸時代茄子 | 朝鮮青磁餌籮 | 面桶 | 嵐籌 | | 炭置候 香合 鎌倉彫 三羽大鳥 炭斗 瓢 茶杓 三入初むかし 上ル 織部作 五嶋五郎左衛門 蓋置 青竹 | 13 | 275・303 |
| 941 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 一月二八日 | 晩 | 伊達綱村 | (同前)利休筆 牧村兵部太輔江之註文) | | 備前経筒 | 朝鮮瓢簞 | | | 伊羅保 | | | 13 | 275 |
| 942 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 二月九日 | 朝 | 伊達綱村 | 仙洞様御懐紙千年へて | 水仙 | 備前異風 | 初瀬山 袋 住吉緞子 | 猪早太 | 面桶 | 唐津 門上ル 舟橋長左衛 | | 炭置候 環 三羽大鳥 堆朱五葉牡丹之紋 浜田屋二右衛門上ル 四角縁菱之透 炭斗 梨地 茶杓 又兵衛初むかし 蓋置 石州作 青竹 | 13 | 276・304 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 943 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 二月一〇日 | 晩 | 伊達綱村 | 利休筆<br>牧村兵部太輔江之註文 | | 古備前細口 | 月影 | | | 下露 | | | 13 | 277 |
| 944 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 二月一三日 | 朝 | 伊達綱村 | 行成色紙 | | 備前経筒 | 桃花 | | | 金海前切 | | 炭置候 | 13 | 277 |
| 945 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 二月二八日 | 朝 | 伊達綱村 | 兀庵一行物 | 白玉<br>赤椿 | 花筒<br>平メ<br>織部作 | 古瀬戸肩衝<br>右衛門かんとう<br>盆<br>青貝四方椿蝶<br>袋<br>弥惣 | 古備前五角 | 沙波利 | 吉野<br>持出 | | 香合<br>三羽鶴<br>青貝瓢簞<br>炭斗<br>細籠<br>今井七九郎殿より<br>茶杓<br>森本初むかし<br>蓋置<br>高山利休作<br>染付桔梗 | 13 | 305 |
| 946 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 三月六日 | 晩 | 伊達綱村 | 柘榴<br>牧渓筆 | 桜<br>白玉 | 籠 | ねくたれ髪<br>井切<br>袋<br>浦 | 古備前五角 | 面桶 | 初春 | | 香合<br>三羽大鳥<br>阿蘭陀孔雀<br>炭斗<br>瓢<br>茶杓<br>残雪<br>蓋置<br>利休作<br>後むかし<br>青竹<br>目利 | 13 | 306 |
| 947 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 三月一三日 | 晩 | 伊達綱村 | 柘榴<br>横三畳台目掛物<br>牧渓筆<br>庵<br>頓阿法師続草<br>集巻頭之切 | | 古備前細口 | 染色<br>薄茶入<br>春慶小大海 | | | 初春 | | 炭置候 | 13 | 280 |
| 948 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 五月九日 | 晩 | 伊達綱村 | 布袋<br>讃<br>画<br>癡絶<br>卒翁<br>小<br>掛物<br>小座敷<br>松殿文 | 小葵 | 淡路屋釣舟 | 備前勢高<br>袋<br>和久<br>田切相良かんとう継<br>分<br>薄茶入<br>春慶小大海 | 伊賀焼異風 | 面桶 | 井戸脇 | | 炭置候<br>香炉<br>瀬戸獅子<br>炭斗<br>細籠<br>香合<br>青貝鷺<br>三羽大鳥<br>水次<br>かねの物<br>茶杓<br>向井後むかし<br>蓋置<br>利休作<br>青竹 | 13 | 315・330 |
| 949 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 五月九日 | 夜 | 伊達綱村 | 三猿<br>尊証入<br>自画讃 | 青蓮院宮<br>道親王御 | 新備前糸目繰形耳 | 芦刈舟 | | | 伊羅保 | | | 13 | 315 |
| 950 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 五月一三日 | 晩 | 伊達綱村 | 柳<br>五位鷺<br>琦石<br>楚<br>画<br>讃<br>庵<br>黙<br>小座敷掛物<br>家卿詩歌之切<br>定 | 葎 | 備前異風 | 口人<br>袋<br>つま梅鉢紋<br>笹つるいな<br>薄茶入<br>口はけの手 | 染付筋丸紋耳付 | 沙波利 | 井戸脇 | | 炭置候<br>香合<br>青貝布袋<br>三羽大鳥<br>炭斗<br>木地手付<br>水次<br>磁釣付<br>茶杓<br>青むかし<br>蓋置<br>森本後むかし<br>石州作<br>土佐焼割足 | 13 | 316・331 |
| 951 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 五月二〇日 | 夜 | 伊達綱村 | 三猿<br>尊証入<br>自画讃 | 青蓮院宮<br>道親王御 | 新備前糸目繰形耳 | 朝鮮削土 | | | 井戸刷毛目 | | | 13 | 316 |
| 952 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 五月二一日 | 朝 | 伊達綱村 | 同前(三猿<br>院宮尊証入<br>王御自画讃)<br>青蓮<br>道親 | | 同前(新備前糸目繰形耳) | 紀海 | | | 尼五器火替 | | | 13 | 316 |
| 953 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 五月二三日 | 朝 | 伊達綱村 | 三猿<br>尊証入<br>自画讃<br>青蓮院宮<br>道親王御 | | 新備前糸目繰形耳 | 小脇指 | | | 尼五器火替 | | | 13 | 317 |
| 954 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 六月二日 | 朝 | 伊達綱村 | 虚堂墨跡 | かうほね | 代長 | 古瀬戸肩衝<br>かんとう<br>盆<br>袋<br>青木<br>若狭盆 | 古備前五角 | 面桶 | 屋躰<br>持出 | | 炭斗<br>細籠<br>香合<br>青貝芦鷺<br>三羽大鳥<br>水次<br>かねの物<br>茶杓<br>三入初むかし<br>蓋置<br>三斎作<br>青竹 | 13 | 333 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 955 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 六月六日 | 朝 | 伊達綱村 | 定家卿詩哥切<br>小座敷掛物 芦<br>蜻 李迪筆 | さくろ | 備前異風 | 古鷹取 袋 かんとう<br>梅鉢紋金入<br>薄茶入 口はけ | 高麗飯櫃形 | 沙波利鉢子形 | 井戸脇 | | 炭置候<br>香合 唐時絵青貝蜂<br>三羽大鳥<br>炭斗 木地手付<br>茶 三入ノ白<br>茶杓 牧村兵部大夫作<br>ひしやく筋違て<br>蓋置 土佐焼割足 | 13 | 318・334 |
| 956 | 一七〇三 | 元禄一六年 | 六月一四日 | 朝 | 道竿 | | | | 鏡山 | | | 熊川火替 | | | 13 | 319 |
| 957 | 一七〇四 | 宝永元年 | 二月二六日 | 晩 | 伊達綱村 | 堯孝之文 | | 古備前立鼓<br>部遠州所持 織 | 古薩摩耳付大肩衝<br>丹後守殿御道具 | | | 宝勝院井戸 | | | 13 | 369 |
| 958 | 一七〇四 | 宝永元年 | 二月二六日 | 夜 | 伊達綱村 | 同前(堯孝之文) | | 同前(古備前立<br>鼓 織部遠州所<br>持) | 岸松肩衝 | | | 古高麗 | | | 13 | 369 |
| 959 | 一七〇四 | 宝永元年 | 四月二七日 | 晩 | 伊達綱村 | 郁山主仏鑑讃 | | 古備前細口 | 峯雪鶴首 | | | 宝勝院井戸 | | 炭置候 | 13 | 373 |
| 960 | 一七〇四 | 宝永元年 | 五月七日 | 朝 | 伊達綱村 | 大学(覚)禅師墨跡 | | 胡銅上下地紋有<br>菅(管)耳 | 古備前耳付文琳<br>薄茶入 霊照女 | | | 細川刷毛目 | | | 13 | 374 |
| 961 | 一七〇四 | 宝永元年 | 五月二七日 | 晩 | 伊達綱村 | 柳五位鷺 讃 琦<br>楚石 画 黙庵 | | 胡銅飯櫃無地帯<br>喰 | 古備前耳付文琳<br>薄茶入 山姥 | | | 堅手火替 | | | 13 | 377 |
| 962 | 一七〇四 | 宝永元年 | 八月三日 | 晩 | 伊達綱村 | 行成卿歌之物 | | 備前異風耳付 | 山端尻張 | | | 焼藻 | | 炭置候 | 13 | 380 |
| 963 | 一七〇四 | 宝永元年 | 八月一八日 | 晩 | 伊達綱村 | 清拙墨跡 | | 古備前立鼓<br>部遠州所持 織 | 新兵衛丸壺<br>薄茶入 翁手胴〆口<br>広 | | | 小蛛 | | 炭置候 | 13 | 380 |
| 964 | 一七〇四 | 宝永元年 | 九月二六日 | 晩 | 伊達綱村 | 一休小色紙 春<br>たつと | | 新備前轆轤目筒<br>形縁有 | 源十郎肩衝 | | | 寿命院堅手 | | | 13 | 383 |
| 965 | 一七〇四 | 宝永元年 | 一〇月七日 | 晩 | 伊達綱村 | 一休和尚梅自画自<br>讃 | | 古備前立鼓<br>部遠州所持 織 | 村雨肩衝<br>薄茶入 内赤外黒 盆 四方<br>円座柿 | | | 三嶋刷毛目塩筒<br>小茶碗 | | 炭前後置候 | 13 | 384 |
| 966 | 一七〇四 | 宝永元年 | 一〇月一五日 | 晩 | 伊達綱村 | 梅一休和尚自画<br>讃 | | 古備前立鼓<br>部遠州所持 織 | 村雨肩衝<br>薄茶入 残雪 利休所持 | | | 三嶋刷毛目塩筒<br>小振 | | 炭置候 | 13 | 385 |
| 967 | 一七〇四 | 宝永元年 | 一〇月一六日 | 晩 | 伊達綱村 | 梅一休和尚自画<br>讃 | | 古備前立鼓<br>部遠州所持 織 | 村雨肩衝<br>薄茶入 残雪 利休所持 | | | 三嶋刷毛目塩筒<br>小振 | | | 13 | 385 |
| 968 | 一七〇四 | 宝永元年 | 一〇月一八日 | 晩 | 伊達綱村 | 梅一休和尚自画<br>讃 | | 古備前立鼓<br>部遠州所持 織 | 村雨肩衝<br>薄茶入 苔露 利休所持<br>大海 | | | 三嶋刷毛目塩筒<br>小振 | | 炭置候 | 13 | 385 |
| 969 | 一七〇四 | 宝永元年 | 一〇月一九日 | 晩 | 伊達綱村 | 梅一休和尚自画<br>讃 | | 古備前立鼓<br>部遠州所持 織 | 村雨肩衝<br>薄茶入 円座柿 利休所持 | | | 三嶋刷毛目塩筒<br>小振 | | 炭前後置候 | 13 | 385 |
| 970 | 一七〇四 | 宝永元年 | 一〇月二八日 | 晩 | 伊達綱村 | 梅一休和尚自画<br>讃 | | 古備前立鼓<br>部遠州所持 織 | 村雨肩衝<br>薄茶入 残雪茄子 利休所持 | | | 三嶋刷毛目塩筒<br>小振 | | 炭置候 | 13 | 386 |
| 971 | 一七〇四 | 宝永元年 | 一一月二日 | 晩 | 伊達綱村 | 梅一休和尚自画<br>讃 | | 古備前立鼓<br>部遠州所持 織 | 村雨肩衝<br>薄茶入 残雪茄子 利休所持 | | | 三嶋刷毛目塩筒<br>小振 | | 炭置候 | 13 | 386 |
| 972 | 一七〇四 | 宝永元年 | 一一月七日 | 晩 | 伊達綱村 | 梅一休和尚自画<br>讃 | | 古備前立鼓<br>部遠州所持 織 | 村雨肩衝<br>薄茶入 柳手大海 利休所持 | | | 三嶋刷毛目塩筒<br>小振 | | 炭置候 | 13 | 387 |
| 973 | 一七〇四 | 宝永元年 | 一一月一〇日 | 晩 | 伊達綱村 | 梅一休和尚自画<br>讃 | | 古備前立鼓<br>部遠州所持 織 | 村雨肩衝<br>薄茶入 円座柿 利休所持 | | | 三嶋刷毛目塩筒<br>小振 | | 炭置候 | 13 | 387 |
| 974 | 一七〇四 | 宝永元年 | 一一月二三日 | 晩 | 伊達綱村 | 梅一休和尚自画<br>讃 | | 古備前立鼓<br>部遠州所持 織 | 村雨肩衝<br>薄茶入 柳手大海 利休所持 | | | 三嶋刷毛目塩筒<br>小振 | | 炭置候 | 13 | 387 |

| 番号 | 西暦 | 年号 | 日付 | 時間 | 席主 | 床 | 花 | 花入 | 茶入 | 水指 | 建水 | 茶碗 | 懐石・菓子 | その他 | 出典 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 975 | 一七〇四 | 宝永元年 | 一二月一一日 | 晩 | 伊達綱村 | 梅一休和尚自画自讃 | | 古備前立鼓織部遠州所持 | 村雨肩衝 利休所持薄茶入 木戸大海 | | | 三嶋刷毛目塩筒小振 | 炭置候 | | 13 | 389 |
| 976 | 一七〇四 | 宝永元年 | 一二月一六日 | 晩 | 伊達綱村 | 梅一休和尚自画自讃 | | 古備前立鼓織部遠州所持 | 村雨肩衝 利休所持薄茶入 残雪茄子 | | | 三嶋刷毛目塩筒小振 | | | 13 | 389 |
| 977 | 一七〇五 | 宝永二年 | 一月二五日 | 晩 | 伊達綱村 | 竺田語心墨跡 | | 備前異風 松平新太郎殿より | 村雨 盆 内赤外黒四方盆 薄茶入 博多大海 | | | 竜田 | 炭置候 | | 13 | 392 |
| 978 | 一七〇五 | 宝永二年 | 二月一日 | 晩 | 伊達綱村 | 一休和尚自画自賛 | | 古備前立鼓 | 村雨肩衝 薄茶入 博多大海 | | | 立田 | 炭置候 | | 13 | 392 |
| 979 | 一七〇五 | 宝永二年 | 二月一六日 | 晩 | 伊達綱村 | 定家卿記録 中将転任 | | 備前異風 松平新太郎殿より | 美奈濃川 薄茶入 瀬戸大海 遠州所持 | | | 黄天目 台尼ヶ崎 | 炭置候 | | 13 | 397 |

《出典》

1 永島福太郎編 『天王寺屋会記』六 淡交社 一九八九年
2 永島福太郎編 『天王寺屋会記』七 淡交社 一九八九年
3 千宗室編纂 「宗湛日記」『茶道古典全集』第六巻 淡交社 一九五六年
4 千宗室編纂 「松屋会記」『茶道古典全集』第九巻 淡交社 一九五六年
5 竹内順一、矢野環、田中秀隆、中村修也 『秀吉の知略「北野大茶湯」大検証』淡交社 二〇〇九年
6 市野千鶴子校訂 『古田織部茶書』二 思文閣出版 一九八四年
7 小堀宗慶編 『小堀遠州茶会記集成』 主婦の友社 一九九六年
8 松山吟松庵校訂 熊倉功夫補訂 『茶道四祖伝書』 思文閣 一九七四年
9 千宗左監修 千宗員編 『江岑宗左茶書』 主婦の友社 一九九〇年
10 谷晃校訂 『金森宗和茶書』 思文閣出版 一九九七年
11 「三菩提院宮御記抄」『日本之茶道』二巻二号～五巻六号 日本之茶道社 一九三六～一九三九年
12 谷端昭夫 「後西院御茶之湯記」『公家茶道の研究』 思文閣出版 二〇〇五年
13 酒井巌 『伊達綱村茶会記』 酒井ゑい 一九六八年
14 赤松俊秀編纂 『隔蓂記』 思文閣出版 一九九七年